「いい音」ビューティフル。

自由に気ままに楽しもう、おしゃれなミニカセットレコーダー。

新開発DNSSテープヒスノイズカット回路内蔵。

デジタル選曲機構装備。メタルテープ対応。

小さなボディながらもワイドなステレオサウンドが楽しめる《ステレオミニ6600》。2つの9.2cmスピーカーが叩き出す4.6W(2.3W+2.3W、EIAJ/DC)のハイパワーは、豊かなステレオ臨場感を再現します。また曲の頭出しに便利なデジタル選曲機構や、テープ再生中に曲間および曲間に相当する低録音レベル時の耳ざわりなテープヒスノイズをカットする新開発DNSS(ダイナミック・ノイズ・サプレッション・システム)ノイズカット回路を採用。しかもメタルテープ対応ヘッドを搭載しています。

●AM放送の同調がしやすい周波数間隔を広げたロングスケール採用 ●テレビの1、2、3チャンネルが聴けるFMワイドバンド(76〜108MHz)採用 ●FM局間ノイズをカットするFMミューティング機能つき ●フルオートストップ機構 ●ソフトイジェクト機構 ●ACアダプター付属

●9.2cmスピーカー×2 ●実用最大出力4.6W(2.3W+2.3W)EIAJ/DC ●3電源/DC:9V(単2×6)、AC:100V50/60Hz(付属ACアダプター使用)、カーバッテリー:別売りカーアダプターD-72使用 ●大きさ幅41.0×高さ13.3×奥行7.3(cm) ●重さ2.5kg(乾電池含む) ★キャリングケース(別売りL-6600 ¥4,000)もございます。

パディスコ6600

ステレオ ミニ

TRK-6600 ¥44,800



品質を大切にする〈技術の日立〉

RADIO CASSETTE RECORDER

HITACHI

生活と技術をむすぶ

日立家電販売株式会社

〒105 東京都港区西新橋2 15 12(日立愛宕別館) TEL(03)502 2111

ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合日立のクレジットがご利用いただけます。

●商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求はお近くの日立の家電品取扱店へどうぞ。

★日立カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。★日立カセットレコーダーには保証書がついています。ご購入の際には必ず記入事項をご確認のうえ、お受取りになり、大切に保存してください。

小学生にハンドボールを!!
■県および、ブロック大会を！
■全国小学校大会を目ざそう！

去る、11月22・23日、別府市で開催された、九州地区小学校ハンドボール大会に、大会委員長の藤田八郎氏の懇請で、大会を視察する機会に恵まれた。

この大会は、ハンドボールのより良い普及と、より大きな発展のために㋑小学生にハンドボールを㋺県およびブロック小学校大会を㋩更に近い将来全国小学校ハンドボール大会を、との氏のかねてからの、大きな夢と理想の実現のための第一歩として、九州地区のハンドボール関係者の絶大なる協力を得て、昨年、第1回の開催へとこぎつけたのに続いて、今回は、第2回目の開催となったのである。

試合は、福岡、佐賀、熊本、大分県からの選抜チーム、男子7チーム、女子9チーム、三百人近くのチビッ子、マメッ子、デッカイ子の選手達と、その数に近い〃ママ〃さんの、熱烈な応援参加の中で行なわれた。

試合形式は、男子が、A・Bブロック予選から、準決、決勝トーナメント方式、女子は、A・B・Cブロックから、同じく準決、決勝トーナメント方式で行なわれた。

試合時間は、子供達の、健康・安全管理と、子供同士、親同士の親睦を増すために、数多くのゲーム（負けたチーム同士のゲームを随時組めるような配慮もされていた）をとのねらいから、全て25分（10分・5分・10分）で実施された。

試合球は、ミカサとモルテンKKが試作した、小学生用ボールを採用したが、大きさといい、重さといい、子供達や、多くの先生方に比較的好評のようだった。

試合内容は、県下のチーム数が多く、そこから選抜されて出て来た熊本勢の男女が、各ブロック予選でそれぞれ他県を圧倒していたが、決勝トーナメントに入り、女子の部で、地元別府市の明野西小学校のチームが、市長さんの激励に応えて一生懸命奮闘し、堂々熊本勢を破って、凱歌をあげて喜こんでいた姿は印象的だった。

男子の部は、網田小と大江小の熊本勢同士の決戦になったが、網田小の監督の前田先生が、特殊戦法である、アサインド・ディフェンスシフト（ゾーン・マンツーマン法）を敷き、これが効を奏して見事優勝へと導いた。

なお、この戦法時に、大江小のポイントゲッターである大田和君（身長163センチ、体重53キロ）に、網田小チーム一のチビッ子選手である西村君（身長130センチ、体重27キロ、男女合わせて一番小さい）に、フェース・ガーディング（ぴったりついて離れない防御法）をさせたアイディアは、ユニークで面白く、見ている人達をも楽しませてくれた。

しかも、この小さな巨人のような西村君は、守備面だけではなく・攻撃面でも、すばしっこい動きで、相手をかわしてシュートしたり、手にあまるボールを、片手だけでなく両手ででも巧みに操作して、味方に正確にパスする技術等は、ボールを片手で自由自在に扱うのが、ハンドボールの基本技術として考えられ、実践されている日本のハンドボール界の昨今にとって、あらためて、基本の技術について考える材料を与えてくれた程、貴重なプレーであった。

この他、チームのポイントゲッターである田中君（157センチ、45キロ）の一対一を、フェイントで破り、一対〇にしてシュートする戦術や技術、2対2を、2対1にするパスプレーの戦術的対応の仕方は、小学生で、こんなプレーをと思わせるものがあったし、又、GKの仲君の俊敏で、しかも堅実なゴールキーピングと、正確なロングパスによるワンパス速攻等の戦術的プレーは、ハンドボールの特性を生かした見事なものであった。

以上、小学生大会を初めて観戦し、これから得た収獲の中で、一番大きかったものは、ハンドボール界の今後の歩みにとって、示唆を与えられたことである。

なかんずく、現在、小学生にハンドボールが普及している県は、熊本県をはじめ、愛知県、岐阜県等、中・高校の普及に比べ少数県に過ぎない。

したがって、魅力あるこのスポーツを全県各地にまで高めるために、財団法人日本ハンドボール協会の組織機構の主要な柱である国民プロジェクトチームが、小学生普及対策のための重要な施策を打ち出し、その方針と、具体的なプログラムに添って各県協会と、日本協会が、がっちりスクラムを組んで実行に移すことが、10年後の大きな飛躍につながる第一歩であろう。

（北川勇喜）

『ハンドボール』

56年11月号（第202号）目次

【表紙写真】第36回びわこ国体の熱戦から
提供・スポーツイベント

第36回 びわこ国体

滋賀県彦根市で10月13日～18日まで開催された第36回びわこ国体は、成年男子・広島、成年女子・三重、少年男子・山口、少年女子・石川がそれぞれ優勝を飾った。

特に、これまで8年連続優勝を飾り、今年九連覇を目ざしていた愛知（大同特殊鋼）が、準決勝で三重（本田技研）に敗れてしまい決勝進出すら果たせなかったのは大波乱であった。このため、宿敵同士の対決とならなかった決勝戦は、広島（湧永薬品）が、楽な展開で三重を破り、実に48年の千葉国体以来9年ぶり4回目の優勝を飾った。

また、少年女子の部で優勝を飾った石川（小松市女高）は、これで春の選抜大会、インターハイに続いて高校界初の三冠王を達成した。

<成年男子>

広島（湧永薬品）が9年ぶり4回目の優勝

小松市女高（少年女子）〝三冠王〟達成

〈成年男子〉

▽1回戦

長崎・佐世保ク 30（15－15、15－10）25 山梨・全山梨

○…長崎、山梨両チーム共に、速攻とフェイントプレー主体の攻撃で得点する、タイプのよく似たチーム同士の対戦で1点を争う好ゲームとなったが、長崎が前半のリードを守り、初戦をものにした。（奥田）

長野・全長野 33（16－12、17－15）27 京都・京都ク

○…大砲をおとりにディフェンスをひきつけ、ポストサイドで得点する長野に対し、ローリングからカットインと速攻しか得点できない京都。この大砲の差が勝敗を分けた。両チームともディフェンスのフットワークがいまひとつ。長野8番、京都4番の生きのいい動きが印象に残った。（森）

愛媛・新居浜ク 24（10－11、14－5）16 宮城・全宮城

○…前半、愛媛のパスワークに宮城のディフェンスの動きが悪く加点された。一方、宮城は攻めても愛媛のディフェンスを破れず、愛媛ペースのゲームとなった。後半、宮城の攻撃リズムがよくなり反撃したが、時すでに遅かった。（中井）

福井・福井教員 32（18－14、14－13）27 沖縄・沖縄県教

○…前半、両チーム共甲乙つけがたく、速攻、ポストプレイなどで着々と加点し、1点差でおえた。後半に入り、福井は速いパスワークから7番土本、8番谷口らのミドルシュートが決まり勝利をものにした。（北山）

山口・下関ク 34（19－8、15－8）16 静岡・富士ク

○…山口は硬軟おりまぜた攻撃で、練習量の豊富さが感じられ、静岡は闘志がからまわりした凡ミスが目立ち、今一歩の感があり、更に技術を充実させて試合にのぞんでほしい。（東）

石川・金沢市役所 28（15－8、13－8）16 和歌山・県和商ク

○…前半、石川は長身の2番、10番のロングシュート、あるいはポストへと着実に得点。和歌山も早い速攻からパス回しで得点、石川ゴールキーパーの攻守に再々のチャンスをつぶされた。後半も石川は相手チームのスタートミスをうまくつなぎ、着々と得点して勝った。

岩手・岩手教ク 29（15－12、14－14）26 香川・讃岐ク

○…両チーム共、コンディション作りが大変であったが、わずかに岩手のまとまりが、後半に発揮され勝利に輝いたけれど、両チーム共よく洗練され、好ゲームであった。

兵庫・県選抜 32（13－13、14－14、3－1、2－3）31 福岡・赤間ク

○…前半立ちあがり、両チーム共に固さが見られ、ペナルティーの失敗やラインクロスで自らの得点機を失っていた。後半、始まって間もなく兵庫の4番浜田の退場をきっかけに福岡がペースをつかみ、15分過ぎに5点もリード、このまま逃げ切るかに見えたが、兵庫が必死に追い上げ、残り2分で同点、1分で逆転したが、福岡もねばりタイムアップ寸前27対27の同点に持ち込んだ。延長に入っても互に譲らぬ攻防を展開したが、兵庫がやや動きの無くなった福岡に1点差で逃げ切った。（野中）

高知・高知ク 22（11－8、11－13）21 茨城・筑波振球会

○…茨城、高知共パス、キャッチミスが多く、またラフプレーも多く凡戦であった。（大橋）

千葉・千葉教員 38（21－5、17－4）9 山形・山形ク

○…千葉は速攻やロングシュートなどの多彩な攻撃で、前半からペースをつかみ得点を重ねた。一方、山形はキーパー釜石を要とする千葉の厚いディフェンスの壁を破ることができず、一方的な試合展開となった。（伊藤）

鹿児島・鹿児島ク 38（21－11、17－10）21 鳥取・境港市ク

○…鹿児島はスピード、パワーテクニックに一日の長があり、セット攻撃、速攻で着々と加点した一方、鳥取は5番のロングとゴールキーパーの着実なキーピングで

善戦したが、力の差はどうしようもなかった。（吉田）

岡山・岡山教員　35（20 15－11 8）19　北海道・湖陵ク

○…岡山はベテラン瀬島を中心によくまとまり、攻撃面、守備面ともに北海道をうわまわり、圧勝の一戦であった。（大原）

富山・全富山　33（15 18－13 12）25　福島・全福島

○…富山が早いパスワークと動きで終始リード、前半18対12で終了。後半開始から2点連取、その後一進一退を続けたが、速い動きとポスト攻撃、時折り見せるミドルなど攻撃全般に一日の長があり富山の順当勝ちと言えよう。（安芸）

神奈川・全神奈川　30（15 15－6 16）22　奈良・選抜奈良

○…奈良のセットプレーに対し神奈川の速攻で始まった。後半に入り、神奈川の体力が上まわり、最終的には奈良のスタミナ切れとなった。（森）

秋田・湯沢ハンドボールク　50（26 24－13 6）19　徳島・県選抜

○…技術的、体力的全てに勝る秋田の一方的ゲームであったが、徳島はゲームを捨てず、最後まで健闘した。秋田のワンサイドゲーム。（安芸）

▽2回戦

広島・湧永薬品　37（19 18－4 2）6　長崎・佐世保ク

○…広島は体力、技術共にひいでているが、シュートミスが多く見られる。もう少し慎重にプレーをしてほしい。長崎も最後までよく健闘した。（大橋）

島根・県選抜　27（13 14－10 12）22　青森・全青森

○…好調なスタートを切った島根が大差をつけて勝利を収めるかに見えたが、青森もよく反撃し、前半2点差で終る。後半に入り、足で優る島根が次第に差を広げ勝利を確実なものとする。（都梅）

長野・全長野　27（17 10－11 9）20　大分・新日鉄大分

○…長野、大分共シュートが稚拙で、後半残り5分まではシーソーゲームを展開したが、大分のシュートミス、パスミスが続き、長野がそのチャンスを生かし、勝利を得た。（吉田）

埼玉・大崎電気　36（19 17－6 12）18　愛媛・新居浜ク

○…体格、体力的にも、技術的にも勝る埼玉の順当勝ち。前半苦戦した愛媛は疲れの出たところを速攻で加点され、点差が開く一方であった。（都梅）

滋賀・全滋賀　30（17 13－6 5）11　福井・福井教員

○…両チーム共、シュートミス、パスミスが目立ったが、体力的、技術的に勝る滋賀が前半で大差にて勝負を決める。滋賀は後半、ディフェンスの荒さが出て、多くの退場者を出し、ディフェンス面での課題を今後に残すようだ。滋賀の一方的勝利で終了。（秋山）

群馬・あかぎク　24（12 12－9 12）21　山口・下関ク

○…前半、群馬はポストのコンビプレー、山口は11番大江の巧みなリードからの展開を自らのタイミングの良いシュートで得点、好ゲームとなった。後半に入って、両チームともに、強引に突っ込むラフなプレーが目立ち、一考を促したい。ゲームの方は終了5分前までもつれたが、最後はスピードにやや優る群馬が勝利をおさめた（森）

石川・金沢市役所　26（16 10－7 7）14　佐賀・葉隠ク

○…立ち上がり佐賀もよく動きペースをとったが、前半、中盤より石川の動きがよくなり、5番、2番のロングを中心に完全にペースに乗り試合を決めた。佐賀のシュートの単調さが敗因である。（久保田）

栃木・栃の葉ク　35（14 21－12 11）23　岩手・岩手教ク

○…シュート力、ディフェンス共に上回る栃木の一方的なゲームであったが、岩手のはつらつとしたガッツのあるプレーは随所に好シュート、好プレーを見せてくれた。警告をとられて「スミマセン」と言って手の上げられる、激しいファイティングスピリットとともにこんなさわやかな気持ちを持ってプレーする選手に観衆の中からも賞賛の声があった。岩手の健闘をたたえたい。（森）

三重・本田技研鈴鹿　30（15 15－6 6）12　兵庫・県選抜

○…走行方向を指示するようにパスを出すゲーム運びと相手に単にパスをするプレーのゲーム運びの2通りのゲームがあった。前者は本田技研であり、後者は兵庫選抜であった。組み立てられたプレーには観るものをひきつける楽しさがある。兵庫選抜に考えたプレーが少なかったのは残念であった（新井）

高知・高知ク　35（17 18－12 4）16　新潟・越路ク

○…スピードに勝る高知が速攻で着実に得点し、新潟を圧倒した。新潟はミスも多く、攻守に粘りがなかった。（奥田）

千葉・千葉教員　29（16 13－7 11）18　岐阜・岐阜教員

○…同じタイプの両チームの対戦は、前半一進一退のゲーム展開となり、千葉やや優勢で前半を終った。後半、千葉は速攻とポストプレーで得点を重ね勝敗を決めた。岐阜の反撃を期待したが、およばなかった。（幸田）

大阪・大阪イーグルス　31（13 18－11 5）16　鹿児島・鹿児島ク

○…前半、鹿児島の出足がよく善戦したが、10分過ぎから大阪のリズムがよくなるとともに速攻、セットで加点し、大差がついて前半を終了した。後半鹿児島はよく健闘したが、前半の失点が大きすぎ終了した。（中井）

東京・三陽商会　41（19 22－12 9）21　岡山・岡山教員

○…東京の速いテンポの攻撃に対し、岡山はディフェンスできず、攻撃はハンドリング悪く一方的ゲーム内容で終る。岡山の4番佐藤の健闘がたたえられる。（岡村）

宮崎・全宮崎　29（14 15－15 12）27　富山・全富山

○…前半、両チームとも速いテンポのボールまわしよりサイドや中央から得点を重ね、一進一退のゲーム展開であった。後半に入り、宮崎はポイントゲッター船木をマンツーマンで守られたため、やや攻撃に精彩を欠くとともに、双方ともキーパーの好守にあい思うように得点がのびず、かろうじて2点差で宮崎が逃げ切った。（伊藤）

神奈川・全神奈川　30（16 14－9 6）15　熊本・全熊本

○…得点の割には両チームともシュートミスが多く、わずかに神奈川の方に速攻でのポイントが勝利につながり、練習量の差があらわれたゲームであった。（国村）

愛知・同特殊鋼　42（20 22－8 10）18　秋田・湯沢ク

○…体力、走力、技術共に上まわる愛知が、堅いディフェンスからの速攻、ポストプレーと多彩な攻撃で着々と加点。一方的なゲームとなった。秋田もよく走り、何

とか得点しようとするが、愛知の高い壁にはばまれ、逆に速攻を許すかたちとなった。（野中）

▽3回戦

広島・湧永薬品 35（21−3, 14−3）6 島根・県島根

○…島根には失礼だが、試合の興味は広島がどのようなすばらしいプレーを見せてくれるか。それに対し、島根がどこまで食らいつくかであった。広島はディフェンスをきっちりやり、オフェンスも一つ一つプレーを確かめながらやっているような展開、対する島根も精一杯ぶつかっていったが、スピードもあまりよくなく、コンビネーションも単調で、広島の堅い壁を破ることはほとんどできなかった。（川島）

埼玉・大崎電気 29（12−10, 17−9）19 長野・全長野

○…埼玉の速攻と全長野3番矢島を中心にセットの攻撃の対戦となったが、試合経験者の差がそのまま結果につながった。最後までゲームを捨てず、闘志あふれるプレーは賞賛にあたいする。（森）

滋賀・全滋賀 28（10−13, 18−12）25 群馬・あかぎク

○…両チーム共、立ち上がりミスが多く一進一退。早く本来のペースをつかんだ滋賀は前半6点差でリード、後半になっても滋賀はペースを守り楽戦を思わせたが、残り15分を過ぎ勝利を意識し、足が止まり点差が少なくなったが、前半のリードで逃げ切った。

栃木・栃の葉ク 31（16−12, 15−10）22 石川・金沢市役所

○…前半、両チーム共激しい動きでのスピーディな攻防であったが、栃木のディフェンスが堅く、それを打ち破るだけのオフェンスが石川にはなく、5点差にて栃木リードで終る。後半に入り、10分過ぎまで点の取り合いが続くが、栃木の攻撃力が上回り、セイフティリードとなる。石川も中盤過ぎより速攻がよく決まり、追いすがったが栃木のディフェンスを破れず終る。（秋山）

三重・本田技研 34（16−9, 18−6）15 高知・高知ク

○…三重は立ち上がりから速攻で連続3得点し、ゲームの主導権を握り、その後も堅実な守りからの速攻で点差を広げていった。後半に入って、高知の攻撃もよくなり、ポストをうまく使って得点した。しかし、スピードに勝る三重が最後まで手をゆるめず大勝した（奥田）

大阪・大阪イーグルス 30（16−4, 14−7）11 千葉・千葉教員

○…相互ともディフェンスが厚く、前半の得点の8割が速攻とペナルティで、わずか大阪のディフェンスの読みがよくパスカットからの速攻で連続6得点でリードする。一方千葉は、セットオフェンスからの得点をねらうが、スピードに欠け、チャンスをつかめなかった。大阪の1部リーグの経験、日頃の練磨が勝敗を決めたゲームである。

東京・三陽商会 30（14−15, 16−13）28 宮崎・全宮崎

○…前半15分までの三陽はコンビプレーを欠き、位置どりプレー（Positioning）を多用したため、元気のある宮崎にカットされ速攻と善戦された。その後は総合体力に劣る全宮崎を振り切ることになったが、プレー内容が改善された訳ではなかった。全宮崎は基本攻撃パターンの単純クロスコンビを忠実に実行したが、パワー不足で善戦ということで終った。（新井）

愛知・大同特殊鋼 33（12−8, 21−5）13 神奈川・全神奈川

○…神奈川は前半5分まで速い動きで大同によくついていたが、その後は動き、シュートともに単調となり加点に苦しむ。一方大同特殊鋼（愛知）は蒲生、中本、柳川といったナショナルプレイヤーを中心に着々と加点する。特に蒲生、小野のコンビでの左サイドからのシュート（得点）はすばらしい。（東）

▽準々決勝

広島・湧永薬品 30（16−10, 14−8）18 埼玉・大崎電気

○…スピード、テクニック、シュート等、さすがにトップクラスのチームのゲームは迫力がある。随所に思わず観客をうならせるすばらしいプレーが見られたが、反面、ディフェンスのラフなプレーも目につく。激しく、なおかつクリーンなハンドボールを目指してもらいたい。この点のみが惜しまれる。前半の広島のゴールキーパー福井のキーピング、埼玉の小兵長野のプレーが光った。（森）

滋賀・全滋賀 22（12−11, 10−8）19 栃木・栃の葉ク

○…前半、滋賀は栃木のシュートをゴールキーパーがファインプレーの連続でよく守ったが、攻撃面では、再三のノーマークシュートを失敗し接戦で終了した。後半も前半と同様の展開となり、1点を争う大接戦となったが、滋賀が地元の大声援にささえられ、からくも逃げ切った。（中井）

三重・本田技研鈴鹿 23（10−7, 13−9）16 大阪・大阪イーグルス

○…前半、両チームとも当りの激しい守りと両ゴールキーパーの好守で、容易に得点できないゲーム展開となったが、速攻のうまさとペナルティースローを確実にものにした三重がリードを奪い、後半も堅い守りで、激しくくいさがる大阪をおさえて逃げ切った。（奥田）

愛知・大同特殊鋼 29（14−5, 15−5）10 東京・三陽商会

○…互いに相手を知りつくした対戦で、スピードとパワーに勝る愛知の一方的な試合であった。

フットワークはフォーメーションから生まれます。
だれが駆けても、

シティは、スポーツマン。

ライヴ・ビークル
「シティ」

HONDA



シティのいちばんライヴな遊び友だちです。
トランクをガレージにしてしまった、
モトコンポは、トラバイ(トランクバイク)。

モトコンポ



（大原）

▽準決勝

広島・湧永薬品 35（16－6、19－9）15 滋賀・全滋賀

○…三笠宮崇仁殿下を御迎えして、地元滋賀が昨年の覇者、湧永薬品（広島）の胸を借りた。国体をめざして造り上げてきたチームプレーは、湧永のそれと大差はなかったが、膝の高さ、レベルより下方のボール操作が悪く、空中プレーでは成功したが、湧永がメンバーをおとし小型化するまではわずかに抵抗したにすぎなかった。（新井）

三重・本田技研鈴鹿 14（8－7、6－6）13 愛知・大同特殊鋼

○…先手を三重がとる展開でゲームはおもしろくなった。愛知は立ち上がり、2本連続蒲生がPTをはずしたのが後まで尾を引いた。後半に入っても、三重のゴールキーパー大畑は再三、再四好キーピングを見せ、ピンチを防ぎ20分までリードを守った。中井が入ってディフェンスの良くなった愛知は、じわじわ追い上げ22分には逆転。しかし、24分には三重が再逆転、1点差で逃げ切った。終盤はすばらしいカットインをみせた三重、三木松。またゴールキーパー大畑は偉大だった。（森）

▽3位決定戦

愛知・大同特殊鋼 26（11－9、15－8）17 滋賀・全滋賀

○…地元滋賀はよく健闘したが総合力に勝る愛知には歯がたたなかった。前半は互いにPTをはずすなどしたが、滋賀ゴールキーパーの好守で試合は盛り上がった。しかし、後半に入り愛知は、蒲生を中心にディフェンスを引きつけポストプレーを成功させて着々と加点して、大差で逃げ切った。（藤本）

▽決勝

広島・湧永薬品 20（12－6、8－4）10 三重・本田技研鈴鹿

	【広島】	得	【三重】	得
GK	井藤	0	細野	0
GK	福井	0	大畑	0
FP	津川	2	三木松	1
FP	生駒	1	佐藤	0
FP	穂積	4	喜井	0
FP	藤本	1	豊岡	4
FP	志賀	0	佐々木	0
FP	戸田	1	矢野	0
FP	池ノ上	4	玉井	0
FP	松本	3	高橋	0
FP	山本	4	栗屋	0
FP	原田	0	坂木	0
PT		（0）20		10（1）

（審・幸田・新井）

○…大きなタイトルのかかった試合では湧永、本田、大同の3者でベストスリーが固定化している状態であるが、湧永は大同を、大同は本田を、本田は湧永を苦手としているような現状では、リーグ戦と違ったトーナメントであるだけに本田の劣勢は予想されていたが、余りにも予想通りのゲーム展開に決勝戦としての盛り上がりに乏しかった。両チームの差は、ゴールキーパー福井を筆頭に防御力の差が得点の開きになって、湧永が楽勝した一戦であった。（望月）

＜成年女子＞

▽1回戦

石川・北国銀行 31（16－1、15－2）3 北海道・室商OG

○…勝負は戦前から石川のものと見られたが、立ち上り直後先取点はとったものの、10分頃まで4対1と3点しかリード出来ず、GKからのスローイングも悪く全体的にリズムに乗るのが遅かった。しかし、それ以後石川のペースとなり一気に加点、前半を16対1で終了した。北海道も横山をリードオフマンとして頑張ったが、実力の差はどうすることも出来ず、大差で敗れた。（藤本）

福島・ムネカタ 19（10－6、9－9）15 大阪・コスモス

○…試合開始後、福島の石田中心のセットプレーよりロング、ポスト攻撃と立て続けに加点、7分には5対0とする。一方大阪も福島の堅いディフェンスにあい得点出来ない状態が続くが、中盤よりコンビにリズムが出て西山のロングシュート、サイドシュートと加点、20分に8対4と追いすがる。その後一進一退をくり返し前半10対6と福島リードで終了したが、クラブチームの大阪の善戦が目立つ。後半立ち上り大阪が奮起、速攻などで2点差に迫る。その後一進一退の接戦となるが、残り5分で福島の速攻が決まり出し、結局4点差で終了。大阪の健闘をたたえたい。（秋山）

京都・京都ク 30（13－5、17－7）12 愛媛・NLHO

○…京都は速攻とサイド攻撃により着々と得点を重ね、ほぼ試合を決定づけた。一方愛媛は、体力的にも劣り、シュート力も今一つなく、練習量の差があきらかに見えた。（幸田）

▽2回戦

熊本・立石電機 30（11－8、19－7）15 石川・北国銀行

○…攻守に勝る熊本は立ち上り4連続得点し、その後も余裕をもってプレーをして確実に得点を重ね危げなく試合を運んだ一戦だった。（大原）

滋賀・県選抜 34（17－9、17－8）17 山口・徳山ク

○…滋賀の活発な動き、及び速攻からのサイド攻撃が得点に結びつき、またゴールキーパーの守りが良く勝利を得た。山口はディフェンスの甘さが目立ち、動きも悪かった。（井上）

茨城・日本ビ 30（12－3、18－3）6 福島・ムネカタ

○…茨城は攻守のきりかえがよく、守りでは腰が大変低くよくコースにたち、攻めては速攻、セットとよく走り得点を重ねる。一方福島は、早い動き、パスワークも単調でチャンスをつかめず、逆に相手にパスカットからの速攻を許し大敗する。（旅）

三重・ジャスコ 38（19－4、19－2）6 京都・京都ク

○…ママさんチームといえる京都は、実業団チームそれも日本リーグのトップを争うジャスコと対戦し善戦したが、実力、経験、練習量ともに及ばず大差の内容となったが、年齢的な点から京都の活躍は意義あることといえる。（光島）

▽準決勝

熊本・立石電機 36（20－9、16－9）18 滋賀・県選抜

○…日本リーグで覇を争っている立石電機と圧倒的声援を受けて頑張る地元滋賀県チームの対戦であるが、実力の差はいかんともしがたく、滋賀がどこまで健闘するかに興味がもたれた。

しかし、滋賀の攻撃は良かったが、防御の甘さをつかれ得点差を大きくあけられた。中でGKの好守がゲームの雰囲気を盛り上げて見応えのある試合で終ったのは良かった。（望月）

三重・ジャスコ 21（12－6、9－10）16 茨城・日本ビ

○…双方共同型のチームであったが、三重の攻防に機動性が大きく松下のコントロールが各所に光を見せ、シュートに対する意欲がなく、茨城はよく走り回ったがシュートにつながりが乏しく後半は追うのみで実を結ばずに終った。三重の全員の好守好走は目立つものがあった。（光島）

▽3位決定戦

茨城・日本ビ 24（14－8 10－11）19 滋賀・県選抜

○…日本リーグのトップを争うチームである日本ビクターに対し滋賀は互角にゲームを進め、前半はリードを保って終ったが、後半は後者揃いのビクターの突進力に息切れして5点差をつけられた。滋賀の健闘は讃えられてよい。（光島）

▽決勝

三重・ジャスコ 17（6－8 11－8）16 熊本・立石電機

	【三重】	得
GK	山本	0
GK	矢部	0
FP	辻本	1
FP	松下	2
FP	宮崎	0
FP	山本	6
FP	横山	0
FP	松岡	4
FP	若田	1
FP	今里	0
FP	若林	0
FP	寺沢	3

	【熊本】	得
GK	井村	0
GK	栗山	0
FP	船野	0
FP	桑原	6
FP	近藤	0
FP	紀野	4
FP	藪田	2
FP	羽立	0
FP	福永	4
FP	喜々山	0
FP	是枝	0
FP	亀園	0

（審・藤本 吉田）

16（5） PT （6）17

○…優勝のかかった熱のこもった雰囲気に三重はやや固くなったか熊本の速攻に追いつけず3点も連取されてやや意外な感じだったが、4分若田のポイントにようやく固さもとれ、日本リーグの再現のように1点差を争う一進一退の攻防で優勝戦にふさわしい見応えのある試合となった。

熊本の5番紀野の動きと三重のGK矢部のペナルティーの好守はゲームを見応えある内容とした。（望月）

〈少年男子〉

▽1回戦

兵庫・県選抜 21（10－7 11－7）14 秋田・湯沢高

○…兵庫は中距離シュート、秋田は1対1の個人技の切れで互いに点を取り合うゲーム展開を示したが、中頃からセットオフェンスの比べあいの様な内容となる。結局シュート力の差で兵庫の勝となるが、兵庫のシュート力はFP全員にムラがなかったことが勝因といえよう。

東京・都選抜 27（13－11 14－10）21 愛知・県選抜

○…出足、早いパスワークからの攻防もミスが多く、キーパーの好守が光る。7分過ぎより両チームリラックスし、着実に得点シーソーゲームを展開、一進一退が続く。東京は10番のロング、7番の速攻がよく決まり、また他のクロッサーも終始よく動く。一方愛知は、2番、7番のロングで応戦するが、サイドシュートが弱く苦杯を喫す。

大阪・府選抜 24（13－6 11－4）10 愛媛・新居浜高

○…最初両チームとも歯車がかみ合わず、攻防が続いたが、大阪の10番の長身を利したジャンプシュートが決まり、着々と得点を加える。特に走り込んでの左右のサイドシュートが決まった。愛媛は何故かパスミスが多く敗退した。（井上）

▽2回戦

富山・氷見高 24（12－7 12－7）14 兵庫・県選抜

○…富山は速攻、セットプレー等で確実に得点したのに対し、兵庫は凡ミスの連続、気力もなく敗れた。富山のGKの巧守、9番のプレーが光った。（北山）

北海道・道選抜 21（14－8 7－12）20 滋賀・県選抜

○…滋賀は、開催県の固さが前半10分過ぎまで続いたのが最後までひびき、惜しい1点差のゲームとなる。北海道は11番の武田のロングを中心によくまとまり、熱戦といえよう。（森）

福岡・県選抜 20（9－8 11－11）19 東京・都選抜

○…両チーム共早いテンポで好試合を展開、東京10番大木、福岡4番三幸、6番浜口等の対戦となり、最後までもつれたが終了30秒前福岡が劇的な勝利ポイントをあげた。（北山）

山口・県選抜 25（12－9 13－11）20 大阪・府選抜

○…技術、チームにまとまりのある山口が随所にファインプレーを展開、追いすがる大阪を振り切った一戦であった。

▽準決勝

富山・氷見高 21（2－0 2－3 10－10 7－7）20 北海道・道選抜

○…前半北海道は気楽にゲームをしたのに対し、富山は固さが目立ち同点のまま後半に入る。後半に入って富山も固さがほぐれ、後半終了5分前に同点とし延長にもつれ込んだ。延長でシーソーゲームが続いたが、富山GKの再々にわたるファインプレーに北海道は敗れた。

山口・県選抜 25（18－10 7－12）22 福岡・県選抜

○…前半、山口が再三の得点チャンスを福岡のGKの好守に阻まれ、差が5点となって終了。後半福岡の浜口をマークし、15分に同点としてから攻撃に味が出て逆転、そのまま勝利を手中にした。インターハイに優勝している自信が勝因といえよう。（岡前）

▽3位決定戦

福岡・県選抜 29（16－12 13－10）22 北海道・道選抜

○…前半福岡は準決勝ほどの気力がなく単調な攻めだったが、後半4番三幸が3連続得点、その後も一方的に点差を広げた。北海道もよく走り頑張ったが、力の差はどうしようもなかった。（北山）

▽決勝

山口・県選抜 34（18－10 16－12）22 富山・氷見高

○…決勝戦にふさわしいスピードとテクニックで試合開始からシーソーゲームを展開し観衆をわかせたが、後半になって富山の動きが止まり、攻撃が単調になり、パスカットからの速攻で次第に山口がその差を広げた。前半の富山のペースを変えて白己のペースに終始した山口が、リズムに乗った攻撃で勝利を決定づけた。（岡前）

	【富山】	得
GK	田中	0
GK	宮下	0
FP	森	5
FP	桜打	2
FP	吉木	0
FP	山本	2
FP	西山	2
FP	大石	1
FP	魁	2
FP	林	8
FP	鳥内	0
FP	大森	0

	【山口】	得
GK	中西	0
GK	谷	0
FP	香中	10
FP	相木	10
FP	青木	10
FP	松永	2
FP	岡	0
FP	前田	2
FP	山木	0
FP	橋本	0
FP	中村	0
FP	大浜	0

（審・北山 浜野）

34（5） PT （3）22

〈少年女子〉

▽1回戦

和歌山・粉河高 12（6－5 6－5）10 沖縄・前原高

○…国体開始式後の第1戦という緊張した雰囲気に両チームとも固さが見られ、凡ミスの繰り返しが多く不本意な立ち上りだったが速攻で得点を重ねた和歌山がやや優勢のうちに前半を終った。後半開始後ペナルティで同点とした沖縄に盛り上りを感じさせたが、和歌山もすぐ返し、1点差を争う好ゲームとなったが、和歌山の実力が一枚上だった。両チームのGK健闘が光った。（望月）

滋賀・県選抜 18（7－4 11－3）7 愛媛・新居浜市商

○…開始1分過ぎに得点をあげた滋賀は、落ちつきが出たのか選手の動きも軽く愛媛の攻撃を早めのディフェンスでつぶしたため愛媛の攻撃が単調となり、キャッチ

ミス及び単調なシュートが目立ちそれを得点に結びつけた滋賀が11対3と大差をつけて前半を終了。後半に入り、滋賀は前半のリードの余裕からか攻撃が単調となり、一進一退の状態となったが、前半のリードで勝利を握った。（吉田）

秋田・大曲農高 18（5－8、9－6、2－1、2－1）16 山梨・県選抜

○…山梨は前半5分で5対1とリードしたが、6分頃よりパスワークが乱れ追加点をあげることが出来なかった。その間、秋田は速攻、ペナルティ等4本のチャンスをものに出来ず、山梨の3点リードで前半終了。秋田は後半開始3分で4点を連取一気に逆転したがその後一進一退で延長戦となる。延長に入って両チーム共固さが目立ったが、速攻をものにした秋田が勝利を収めた。（中山）

▽2回戦

石川・小松市女高 14（7－3、7－4）7 和歌山・粉河高

○…前半石川のペースでゲームは進んだが、後半和歌山は思い切った攻撃で石川のペースを崩し、緊張した試合となった。しかし、残り5分石川はキャプテン藤田が強引に飛び込みシュートを決め再度小松のペースとして試合は終った。（中山）

愛知・県選抜 20（7－3、13－3）6 広島・県選抜

○…愛知は広島のシュートミスを速攻につなぎ、サイド攻撃及び鋭いカットインで広島のディフェンスを破り得点を重ねた。後半に入っても愛知のスピードは落ちず着々と得点をあげる。それに対して広島は横の動きが多く、攻撃が単調となるところを愛知のディフェンスにつかれ、カット並びにパスミス等で速攻に繋がれ一方的なゲームであった。

滋賀・県選抜 11（6－2、5－4）6 北海道・道選抜

○…国体目ざして鍛えられた滋賀と身体の大きい北海道との対戦で興味をそそられたが、北海道の動きの鈍いプレーで滋賀のワンサイドになり凡戦となった。勝った滋賀もキャッチミス、シュートミスが目立ち、地元の声援に応える好プレーは見当らなかったことは明日の対戦へ大きな課題を残した。（望月）

秋田・大曲農高 16（9－8、7－6）14 熊本・県選抜

○…試合終了3分前まで勝負の決まらないシーソーゲームであったが、そのわりに盛り上りは少なかった。熊本は10番のロングで追いつけば秋田は2番のロングで引き離し、追いつ追われつだったが、秋田は5番、7番の巧みなプレーで最後振り切った。（藤本）

▽準決勝

石川・小松市女高 15（6－7、9－3）10 愛知・県選抜

○…石川はスピードあるセットオフェンスをよく活用して愛知のディフェンスの間隔を崩し先行したが、愛知はGKの大胆なパスアウトによる速攻が奏効し、一時期先行した。後半石川のセットオフェンスはますます冴えをみせ、15分には安定リードを奪い、愛知の再三にわたる追撃を振り切って勝利をものにした。（光島）

滋賀・県選抜 16（5－7、8－6、0－0、3－1）14 秋田・大曲農高

○…最初から攻防ははげしくエキサイトした展開で、前半は秋田の防禦が堅くリードで終ったが、後半になり滋賀が地元の応援を背に受け、よく動き同点に追いついて延長になる。延長後両チームとも落ちついたプレーをしたが、力以上のものを発揮した滋賀チームの勝利であった。（井上）

▽3位決定戦

愛知・県選抜 18（11－7、7－5）12 秋田・大曲農高

○…17分まで互角の点の取り合いだったが、前半終了間際4点連取した愛知がゲームの流れを自分のペースにした。後半はペースに乗った愛知が着々と点を重ね大きく差をつけて余裕をもって勝った。（望月）

▽決勝

石川・小松市女高 14（5－0、9－3）3 滋賀・県選抜

得	【滋賀】		【石川】	得
0	小西	GK	吉田	0
0	居原田	GK	新宅	0
0	辻	FP	高田	2
1	西河	FP	和田	1
0	大西	FP	藤川	1
1	大野	FP	中川	0
0	辻	FP	島田	0
0	辻	FP	高木	6
0	脇坂	FP	藤田	2
0	成宮	FP	川端	0
0	田村	FP	大森	1
1	大橋	FP	中嶋	1
3	(0)	PT	(3)	14

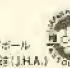
（審・光島・望月）

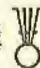
○…この大会にそなえ練習を積んできた滋賀だが、石川の前ではどうにもならなかった。ペナルティスローをすべてキーパーにはばまれ、後半の追い上げが見られるかと思ったが最後まで石川のペースで終った。（森）




molten
molten
official size
JAPAN HAND BALL
検定
ASSOCIATION
MTH3
Made in Japan


JAPAN HAND BALL
検
定





全日本学生選手権大会

男子・中大、女子・日体大が共に5年ぶりの優勝を飾る

全日本学生選手権大会（男子24回、女子17回）は、11月17日から21日までの5日間、東京駒沢屋内球技場、駒沢体育館などで開催された。

男子の決勝戦は、中大と日体大で闘われたが、史上初の延長戦となる熱戦の末中大が5年ぶり3回目の優勝を飾った。

女子は、関西勢として初の決勝進出を果たした武庫川女大の挑戦を受けた日体大が、故障者が多く苦戦したが、よく振り切って5年ぶり11回目の優勝を飾った。

〈男子〉

○1回戦

京都産業大 21（10－11、11－9）20 慶応義塾大

○…ロング、フェイント攻撃の慶応で京産に対し、サイド攻撃の慶応で白熱したゲームが行なわれたが、シュート力に勝る京産が慶応の追撃を振り切って勝利を治めた。（清水）

東海大 25（16－6、9－9）15 山口大

○…総合力に勝る東海大の順当勝ちであるが、共にパスミス等が目立ち凡戦であった。東海大の走り込んでからのロングシュートには見るべきものがあった。山口大は全体に攻撃がディフェンスに近すぎて、シュートを打ちあぐんでいた。（菊地）

函館大 30（16－12、14－9）21 鹿児島大

○…前半、鹿児島にパスキャッチミスが多く、相手の速攻につながった。それと攻撃が単発的でボールを保持している時間が少ない。後半、函館大はサイドからの得点で差を広げ、ディフェンスに荒さのある鹿児島大が退場者を2名も出し、個人プレーで追ったが間に合わなかった。（菅野）

筑波大 32（18－7、14－14）21 名城大

○…立ち上がり、エース西山を個人マークされて球が中島に集まる筑波に対し、名城は林、立木を中心とした豪快な攻撃を見せ、8－4と開いた。しかし、名城1人退場の間に波に乗った筑波がジリジリ追い上げ、同点となった後は一進一退の展開で14－14で前半を終った。後半に入り、ディフェンスの良くなった筑波に名城は10分まで無得点。この間に筑波は個人マークの西山をフリースローなどからうまく使って19－14と一気に開き、試合を決定した。（佐藤）

国士館大 25（13－9、12－11）20 大阪経済大

○…立ち上がり5－1、国士館のリードで一方的かと思わせたが大経大の善戦で好ゲームとなった。しかし、大経大も今一歩、後半15分で力つきた。

久留米工大 29（17－10、12－12）22 茨城大

○…両チーム共に決め手が無く茨城大の速攻が2本続き、ここでペースをつかむかに見えたが、久留米工大もよく頑張り前半12－12の同点で終了する。後半、久留米工大が檜原のスタンディングシュート2本でリズムをつかみ、2回戦に進出。（半田）

福岡教育大 32（17－11、15－10）21 信州大

○…福岡教大は林田のフェイント、堀の速攻で若い信州大を振り切ろうとした。高さに勝る信州大ではあったが、パスミス、キャッチミスを続出、破壊力のあるロングシュートを生かすことができなかった。国立大学同士の戦いは結局福岡教大に軍配が上がったが、1、2年に好素材を持つ信州大の今後に期待したい。（岩本）

早稲田大 31（16－7、15－9）16 福島大

○…地力に勝る早稲田大が福島大を圧勝した。両チームとも雑なプレーが多く大味なゲームとなったが、福島大が最後まで積極的なプレーをし早稲田大を悩ませた。（清水）

○2回戦

中央大 36（20－10、16－9）19 京都産業大

○…中大の速い動きとパスワークに京都産大のディフェンスがついて行けず、時間と共に加点され中大の一方的なゲーム展開となった。（青木）

東海大 30（15－12、15－17）29 中部工業大

○…点数の取り合いで、両方ともディフェンスが甘く、少差のわりに凡戦であった。（菅野）

日本大 27（12－8、15－6）14 函館大

○…前半、早いつめで堅い守りの日大に付し、函大はミスが続き攻めきれない。日大は相手のミスにつけ込み着々と加点、セットにおいても速いパスで相手をゆさぶり、サイド等から加点、大差がついた。後半に入っても函大はリズムにのれず、前半同様日大に押しきられた。攻守の差のありすぎたゲームであった。（加藤）

筑波大 31（15－11、16－9）20 同志社大

○…松ヤニ使用によるリーチの長さとジャンプの高さをいかした個人プレーの応酬は、ディフェンス技術の悪い同志社大の負けとなった。終始2人までのコンビプレーしか行なわず、全体としての組織プレーを見せなかった両チームにどんなプレーが隠されているか次のチャンスに期待したい。（新井）

日体大 22（13－11、9－8）19 国士館大

○…両チーム共、早い展開からカットインシュートを狙い激しい攻防を繰り広げた。スピード、体力に勝る日体大が最初有利に試合を展開したが、キーパー矢内の活

躍とディフェンスの立ち直った国士館が追い上げ、1点を争う好ゲームとなった。後半、ボールキープ力のある国士館がよく頑張ったが、地力に勝る日体大が要所でポストプレーを決め試合を決定した。（仲尾）

中京大 28（12―4／16―10）14 久留米工大

○…立ち上がり、中京大は久留米工大183センチ二川、190センチ檜原と言った高い壁にとまどって、8分間程両チーム得点のないままに経過したが、中京大4番山岸が先取点を決め得点がスムーズに流れ、前半12―4と大きく差を開き勝負を決定づけた。後者も中京大は有利な得点差で伸びのびとプレーし、着々と加点して楽勝した。（望月）

法政大 33（18―12／15―11）23 福岡教育大

○…両チーム共に速攻にスピードが無く、速攻からの得点率は少ない。セットオフェンスによる得点が主体と見られる。特に福岡教大は2―4攻撃でのポストとの連継が悪い為にその差が得点差であろう。両チーム共にスピード力を持った試合展開の習得が必要であろう。また、勝者の法政は次の試合も同じ展開を行なえば苦戦が予想される。（高野）

早稲田大 25（14―10／11―11）21 大阪体育大

○…ベスト8に関西学連チームが一つでも進出できるかどうかをかけて、関西ナンバー1大体大が早稲田と走り合った。走力は互角であったが、得点を取るシュートのパワーと正確さで早稲田が勝りディフェンスでも早稲田はシューターにダブルで対応したのが効果的で、ゴールキーパーの好守と合まって勝利を得た。（新井）

○3回戦

中央大 40（18―9／22―10）19 東海大

○…インカレ優勝候補の中大と関東リーグ2部優勝校の東海大では優劣は初めから予想されていたが、出足に東海大が3点連取して優位に立ったので、これはと思わせたが、結局は横綱と十両力士の試合になってしまった。しかし、若さに溢れた東海大のきびきびしたプレーで最後まで健闘したことは、これからの東海大成長が期待できる楽しみを残してくれた。（望月）

筑波大 22（12―6／10―11）17 日本大

○…前半、早々4連続得点を上げた筑波大が、ゴールキーパー野田の好守に再三助けられながらもリードを保ち、勝利を収めた。日大は西山にマンツーマンを付けずに互角の戦いをしただけに、前半早々の失点が痛かった。（清水）

日本体育大 23（16―4／7―9）13 中京大

○…日体大の勝利に終ったが、得点差程の技術的な力量差はなかった。結局は高さ、日体大の厚いディフェンスの壁を打ち破れないまま中京大は敗退した。学生らしく最後まできびきびした好ゲームであった。（岡本）

早稲田大 23（9―10／14―8）18 法政大

○…両チーム共、ゴールキーパーの好守とクリーンなプレーとで引き締った試合となった。常に1点を先行した法政であったが、後半10分から22分まで得点できず、その間、早稲田はミスにつけ込んで着実に得点を重ね、逆転勝ちをおさめた。（岩本）

法政大 24（15―9／9―10）19 東海大

○…法政の多彩な攻撃に対し、東海は福士を軸にねばり強く攻めたが法政の速攻を許し、前半の点差が縮まらず法政が逃げ切った。（浅田）

日本大 21（10―6／11―7）13 中京大

○…日大は堅い守りで中京の足を止め快勝した。中京は後半、開始後の追い上げのチャンスに速攻ミスを重ね、リズムに乗れないままに敗退した。（岩本）

○5位決定戦

日本大 22（11―7／11―9）16 法政大

○…4年生のレギュラーをはずした法政に戦力ダウンが見られ、セットオフェンスから得点ができず苦しい展開となった。一方、日大もパスミス等が要所要所で見られ、一気につき離すことができなかった。結果として総合力のある日大が勝ったが、ミスが目立ちつまらない内容の試合であった。（菊池）

○準決勝

中央大 23（11―12／12―7）19 筑波大

○…互いにフォーメーションからのセット攻撃による得点で、見ごたえのある試合であった。中央の攻撃は個人の力が平均しており得点も分散していた。筑波の攻撃は2番、3番の選手にかぎられ、その差が得点にあらわれたと思われる。（菊池）

日本体育大 19（9―9／10―9）18 早稲田大

○…両者とも今一つ攻めに鋭さを欠き、また、ディフェンスで気迫を見せ、少得点の一進一退の展開で9―9で前半を終った。後半、立ち上がり連続PTで2点差をつけた日体大に対し、早稲田は10分過ぎから一気に攻め、逆に2点差をつけてムードに乗った。しかし終了5分前、早稲田一人退場の間に日体大は追いつき、2分前逆転ゴールを決めて守り切り、からくも勝利をおさめた。（佐藤）

○3位決定戦

早稲田大 21（7―10／14―10）20 筑波大

○…速球王西山を擁する筑波も全員攻撃の早稲田の総力のまえに

敗れ去った。（新井）

○決勝

中央大 26（9－8，11－12，3－2，3－1）23 日本体育大

○…秋の関東リーグの引き分けに決着をつけた決勝戦、中大はロング、日体大は速攻と両チームの持ち味を生かした試合展開であった。結局、勝敗は延長に持ち込まれたが、中大は実方の活躍で混戦に決着をつけた。まさに、インカレ決勝にふさわしく死闘の10分の激突のゲームというべきか。（岡本）

＜女子＞

○1回戦

日本体育大 30（17－0，13－5）5 山口大

○…総合力に勝る日体大の一方的な試合であったが、山口大も最後まで良く頑張った。（浅田）

中京女子大 22（10－3，12－4）7 東海大

○…セットから攻撃力のない東海大に対し、中京女子大は堅いディフェンスから相手のミスを誘い速攻による得点を重ねた。中京女子大はセットからもよくシュートをはなち、東海大を圧勝した。（菊池）

東京女子体育大 12（3－2，9－4）6 中京大

○…前半、内容的には押しぎみの中京大はチャンスでキャッチミスを連発し、加点できなかったのがひびいた。一方東女体大は、後半の一線防御が奏効し、中京のリズムを狂わせ勝利を得た。力の入った好ゲームであった。（岩本）

福岡教育大 21（13－6，8－6）12 千葉明徳短大

○…千葉も良く持ち味を出し得点を上げたが、地力に勝る福岡教大が着実に得点を上げ勝利をおさめた。（清水）

筑波大 22（11－3，11－3）6 大阪教育大

○…筑波大が攻守共に大教大を圧倒し勝利をおさめた。大教大も積極的にプレーをし、得点を上げ、善戦と言えるのであろう。（清水）

大阪体育大 21（12－3，9－0）3 岩手大

○…岩手は小粒ながら、きびきびした動きで良く闘ったが、結局、大体大の脚が勝った。速攻がよく決まり、特に12点を上げた池上の活躍が目立った。しかし、大体大はミスも目立ち、今後に不安をいだかせた。

日本女子体育大 18（10－1，8－3）4 福岡大

○…立ち上がりから遅攻、速攻と得点を重ねてゆく日女体大に対して、福岡大は力に勝る日女体大の厚いディフェンスを破る手だてがなく、前半はペナルティスローによる1点を得ただけであった。後半に入っても点差は広がるばかりで、日女体大が18－4で初戦をものにした。（後藤）

武庫川女子大 17（13－3，4－6）9 東京学芸大

○…学芸大は短いパスでつないだセットプレーで良く走るが、ミスが目立ち自滅した。武庫川は速攻を軸によく走りロングシュートを決め大差をつける。

○2回戦

日本体育大 32（16－3，16－8）11 中京女子大

○…中京女子大はセットオフェンスでの攻撃を繰り返えすが、日体大のディフェンスが堅く決めることができない。一方、日体大はカットプレー、ゴールキーパーからの速攻を着実に決め得点を重ねた。しかし、中京女子大のポストプレーを有効に使い得点を得ている。総合的には実力差が出ていた内容である。（高野）

東京女子体育大 24（9－8，15－7）15 福岡教育大

○…両者ミスが多く、遅攻多彩な東女体大が初めリードしたが、前に出るディフェンスからの速攻で福岡教大も追い上げ、9－8で前半を終えた。しかし、後半に入ってディフェンスのよくなった東女体大を福岡教大は攻め切れず、10分まで16－8と東女体大が一気に離して勝負を決めた。前半せった割にはミスの多い、内容の低い試合だった。東女体大の退場者4人は問題があろう。（佐藤）

筑波大 21（15－7，6－6）13 大阪体育大

○…戦評なし。

武庫川女子大 13（10－6，3－6）12 日本女子体育大

○…前半は武庫川がサイドでのフォーメーションによる得点分だけ差をつけるが、技にセットからのロングシュートには決定力がなく、速攻の応酬となった。後半、動きの鈍くなった武庫川大に対し、日女体大はキーパーの好キーピングに助けられ一時同点とした。しかし、セットからの決定的なシュートが出せず、武庫川に速攻を許し、逃げ込まれた。（菊池）

○準決勝

日本体育大 23（14－4，9－6）10 東京女子体育大

○…FPの膝へのテーピングが12分の8の東女体大と12分の2の日体大では走力、跳力に差がでるのは当然である。攻めあぐねた末のシュートをカットされて速攻に継げられ、走り負けでは、ディフェンスでの棒立ちスタイルも当然かもしれない。準決勝とは思えない大差ゲームであった。（新井）

武庫川女子大 16（8－6，8－5）11 筑波大

○…武庫川はスピードのある展開からよくボールを回し、少ないチャンスを積極的なシュートでものにした。これに対し、筑波は消極的なプレーからシュートミスを繰り返し、武庫川の速攻を受けてしまった。キーパーの好守と武庫川の積極的な速攻からのシュートで思わぬ大差となった。（清水）

○3位決定戦

筑波大 19（10－4，9－13）17 東京女子体育大

○…終始リードを奪った筑波大が東京女体大の追い上げを余裕を持って逃げ切った。（岩本）

○決勝

日本体育大 18（8－6，10－7）13 武庫川女子大

○…武庫川はスピードのある積極的な攻撃で日体大を苦しめたが、ゴールキーパー高倉の巧守にはばまれ、得点を上げることが難しかった。これに対し、日体大は多彩な攻撃から確実に得点を上げ、思わぬ差をつけて日体大が勝利をおさめた。（清水）



■第2回九州小学生親善ハンドボール大会……■

男子の部、熊本県代表・網田小学校ハンドボールクラブ優勝
女子の部、大分県代表・明野西小学校ハンドボール少年団が優勝

この大会は、11月22・23日の両日、別府の青山高校グランドと体育館で開催された。

参加チーム男子の部は、熊本県から、網田小ハンドボールクラブ、走潟ハンドボールクラブ、大江小ハンドボールクラブ、宇土花園ハンドボールクラブ、三田川ハンドボールクラブ、福岡県から、ブリヂストンスポーツ少年団、佐賀県から、神埼町ハンドボール教室の計7チーム、女子の部は、熊本県から網田小ハンドボールクラブ、宇土小女子ハンドボールクラブ、津奈木小女子ハンドボールクラブ網津小ハンドボールクラブ、横瀬ハンドボールクラブ、大分県から明野西小ハンドボール少年団、明野東ハンドボールクラブ、別府市北小学校チーム、明野西B小学校チーム、計9チームが参加した。

試合形式は、男子Aブロック3チーム、Bブロック4チーム、女子は、A、B、C3ブロック、3チームづつで予選リーグが行なわれ、勝ち抜いた各4チームの決勝トーナメントで優勝が争われた。

男子の部の優勝決定戦は、熊本県の網田小ハンドボールクラブと、同県の大江小ハンドボールクラブの対戦となったが、男子の選手の中で一番の長身者である、大江小の大田和選手（163ｾﾝ、53ｷﾛ）に、出場選手の中で一番小さな、網田小の西村選手（130ｾﾝ・27ｷﾛ）が、マンツーマンでぴったりマークするという、大変ユニークで面白い戦法が功を奏して、網田小が優勝を飾った。

女子の部では、地元の明野西小と、男子と共に決勝に進出した網田小との対戦となったが、前後半大接戦の末延長に入り、タイムアップ寸前、ラッキーな得点で、明野西小ハンドボール少年団が昨年に引き続き、2連勝を飾った。

〔試合結果〕

▽男子予選リーグ

○Aブロック

網田（熊本） 15―4 神埼（佐賀）
走潟（熊本） 10―3 神埼
網田 9―6 走潟

○Bブロック

大江（熊本） 11―2 BS（福岡）
宇土花園（熊本） 12―1 三日川（佐賀）
大江 13―4 三日川
宇土花園 7―5 BS

▽決勝トーナメント準決勝

大江 7（2―3、5―2）5 走潟
網田 8（4―2、4―0）2 宇土花園

▽決勝

網田 7（3―2、4―1）3 大江

▽女子予選リーグ

○Aブロック

宇土（熊本） 9―8 明野東（大分）
横瀬（大分） 10―5 明野東
宇土 9―4 横瀬

○Bブロック

網田（熊本） 15―2 別府（大分）
明野西A（大分） 16―3 別府
明野西A 6―4 網津

○Cブロック

網津（熊本） 6―4 明野西B（大分）
津奈木（熊本） 6―5 明野西B
津奈木 14―5 網津

▽決勝トーナメント準決勝

明野西A 11（5―6、6―1）7 宇土
網田 9（6―2、3―2）4 津奈木

▽決勝

明野西A 9（3―2、4―5、1―1、1―0）8 網田

■第13回全日本自衛隊選手権大会……………■

勝田が 五連勝を飾る

10月2・3日の両日、東京・駒沢体育館で開催された第13回全日本自衛隊選手権大会は、強豪・勝田（陸・茨城）が、実力を発揮、危げなく5連勝を決めた。

〈男子選手権の部〉

▽1回戦

古河補給処（陸・茨城） 12―0 市ケ谷（陸・東京）
三宿中央病院放養所（陸・東京） 8―6 古河一施新教（陸・茨城）
久里浜（陸・神奈川） 15―13 東立川（陸・東京）
古河一施大（陸・茨城） 12―0 宇都宮（陸・栃木）
仙台（陸・宮城） 12―0 北熊本（陸・宮城）
福島（陸・福島） 12―0 呉（海・広島）

▽2回戦

古河補給処 12―0 三宿中央病院放養所
久里浜 16―10 古河一施大
福島 20―14 仙台

▽準決勝

勝田（陸・茨城） 34―13 古河補給処
久里浜 20―11 福島

▽決勝

勝田 32（15―3、17―4）7 久里浜

〈少年の部〉

江田島少年術科学校（海・広島） 13（6―7、7―4）11 武山少年工科学校（陸・神奈川）

〈女子の部〉

三宿中央病院 5―4 市ケ谷ワック

〈壮年の部〉

勝田・古河OB（陸・茨城） 9（4―4、5―4）8 久里浜・武山OB（陸・神奈川）



各地学生秋季リーグ戦

関西学生秋季リーグ戦

▼男子1部

大体大 31（18－13 13－12）25 京産大
同志社大 26（12－9 14－9）18 大阪大
近畿大 26（12－15 14－7）22 大阪大
大経大 24（11－7 13－12）19 関大
大体大 23（10－7 13－13）20 大経大
同志社大 27（15－9 12－10）19 近畿大
関大 26（13－12 13－14）26 大阪大
大経大 24（14－6 10－8）14 大阪大
大体大 24（11－10 13－10）20 近畿大
京産大 32（14－7 18－6）13 関大
関大 26（16－10 10－14）24 近畿大
大体大 34（17－5 17－5）10 大阪大
同志社大 26（10－12 16－12）24 京産大
関大 24（8－14 16－9）23 同志社大
大経大 25（14－10 11－6）16 京産大
京産大 26（14－9 12－11）20 近畿大
大経大 20（12－9 8－10）19 同志社大
大体大 35（18－6 17－9）15 関大
大経大 20（9－8 11－11）19 近畿大
京産大 26（11－15 15－7）22 大阪大
大体大 32（20－11 12－9）20 同志社大

関西学生男子勝敗表

	大体大	大経大	同大	京産大	関大	近大	大阪大	勝	負	分	順位
大体大	＼	○	○	○	○	○	○	6	0	0	①
大経大	●	＼	○	○	○	○	○	5	1	0	②
同大	●	●	＼	○	●	○	○	3	3	0	③
京産大	●	●	●	＼	○	○	○	3	3	0	④
関大	●	●	○	●	＼	○	△	2	3	1	⑤
近大	●	●	●	●	●	＼	○	1	5	0	⑥
大阪大	●	●	●	●	△	●	＼	0	5	1	⑦

▼女子1部

大体大 43（22－1 21－1）2 関学大
大教大 19（11－5 8－6）11 和歌山大
大体大 40（19－2 21－7）9 成蹊短大
武庫川大 44（23－0 21－1）1 関学大
大体大 37（20－0 17－2）2 和歌山大
成蹊短大 28（14－4 14－3）7 関学大
京教大 20（12－3 8－1）4 関学大
武庫川大 31（16－4 15－4）8 成蹊短大
武庫川大 38（22－2 16－2）4 和歌山大
大体大 27（11－6 16－5）11 大教大
大教大 30（13－9 17－2）11 関学大
成蹊短大 14（6－4 8－4）8 京教大
武庫川大 27（14－0 13－3）3 京教大
大体大 18（11－1 7－3）4 京教大
武庫川大 34（17－3 17－1）4 大教大
和歌山大 31（17－8 14－5）13 関学大
大教大 23（11－8 12－5）13 成蹊短大
京教大 11（8－6 3－2）8 和歌山大
成蹊短大 19（10－9 9－9）18 和歌山大
大教大 12（10－6 2－3）9 京教大
武庫川大 17（8－7 9－7）14 大体大

関西学生女子勝敗表

	武庫川	大体大	大教大	成蹊短	京教大	和歌山	関学大	勝	負	順位
武庫川大	＼	○	○	○	○	○	○	6	0	①
大体大	●	＼	○	○	○	○	○	5	1	②
大教大	●	●	＼	○	○	○	○	4	2	③
成蹊短	●	●	●	＼	○	○	○	3	3	④
京教大	●	●	●	●	＼	○	○	2	4	⑤
和歌山大	●	●	●	●	●	＼	○	1	5	⑥
関学大	●	●	●	●	●	●	＼	0	6	⑦

中・四国学生秋季

▽男子1部

○リーグ戦

広島大 32（10－11 22－9）20 島根大
広島工大 20（15－10 5－8）18 広島修道大
山口大 32（14－11 18－10）21 島根大
山口大 26（11－7 15－9）16 広島工大
広島大 24（11－4 13－5）9 広島修道大
広島大 16（9－6 7－7）13 山口大
広島修道大 33（17－8 16－9）17 島根大
広島工大 32（12－12 20－7）19 島根大
山口大 23（19－10 4－11）21 広島修道大
広島大 30（18－10 12－7）17 広島工大

【順位】①広島大学4勝 ②山口大学3勝1敗 ③広島工業大学2勝2敗 ④広島修道大学1勝3敗

⑤島根大学4敗

▽男子2部

○リーグ戦

岡山大 31（23-8 8-9）17 広大福山

岡山大 34（16-7 18-7）14 松山商科大

高知大 23（13-9 10-5）14 松山商科大

愛媛大 30（15-13 15-12）25 高知大

広大福山 21（7-12 14-7）19 愛媛大

愛媛大 23（11-10 12-7）17 松山商科大

広大福山 18（10-8 8-4）12 高知大

松山商科大 20（10-9 10-5）14 広大福山

岡山大 14（7-7 7-7）14 高知大

岡山大 14（11-2 3-10）12 愛媛大

【順位】①岡山大学3勝1分 ②広島大福山2勝2敗 ③愛媛大学2勝2敗 ④高知大学1勝2敗1分 ⑤松山商科大学1勝3敗

▽男子3部

○リーグ戦

徳島大 39（16-5 23-2）7 近大呉工学部

徳島大 22（10-13 12-8）21 香川大

鳥取大 21（15-8 6-12）20 香川大

鳥取大 24（13-7 11-8）15 山口大工学部

香川大 35（20-8 15-6）14 近大呉工学部

山口大工学部 34（17-8 17-7）15 近大呉工学部

山口大工学部 28（12-9 16-8）17 香川大

徳島大 27（12-14 15-13）27 山口大工学部

鳥取大 36（19-3 17-5）8 近大呉工学部

鳥取大 23（15-8 8-7）15 徳島大

【順位】①鳥取大学4勝 ②徳島大学2勝1敗1分 ③山口大学工学部2勝1敗1分 ④香川大学1勝3敗 ⑤近畿大呉工学部4敗

▽女子の部

○リーグ戦

山口大 17（6-7 11-4）11 高知大

岡山県立短大 16（7-5 9-4）9 岡山大

山口大 17（6-7 11-5）12 岡山県立短大

岡山大 13（10-4 3-3）7 高知大

山口大 22（14-2 8-5）7 岡山大

岡山県立短大 20（8-5 12-5）10 高知大

【順位】①山口大学3勝 ②岡山県立短期大学2勝1敗 ③岡山大学1勝2敗 ④高知大学3敗

▽入替戦

○男子1部－2部

岡山大（2部1位）22（15-8 7-11）19 島根大（1部5位）

○…中四国学生秋季リーグ戦は男子1部、2部は10月24日、25日愛媛県立体育館において、女子、男子3部は11月21日、22日、岡山県立体育館において開催された。

男子1部では広島大学が宿敵山口大学を3点差の近差で振り切り、全勝で優勝を決めた。女子では山口大学が危げなく、同じく全勝で優勝を決めた。

中国五大リーグ戦

○リーグ戦

山口大 24（14-9 10-7）16 広島大

山口大 31（16-14 15-7）21 岡山大

山口大 33（19-9 14-9）18 島根大

山口大 28（13-11 15-4）15 鳥取大

広島大 27（15-10 12-11）21 岡山大

広島大 29（16-6 13-13）19 島根大

広島大 24（8-7 16-6）13 鳥取大

岡山大 22（15-8 7-11）19 島根大

岡山大 24（13-12 11-12）24 鳥取大

島根大 28（15-12 13-8）20 鳥取大

【順位】①山口大学4勝 ②広島大学3勝1敗 ③岡山大学1勝2敗1分 ④島根大学1勝3敗 ⑤鳥取大学3敗1分

○…中国五大学リーグ戦は、11月14日、15日の両日、山口県立体育館において開催され、第1回大会の覇者山口大学が本大会も全勝で優勝を決めた。

山口大—広島大の試合は、前半より好ディフェンスで相手得意のローリング攻撃を封じた山口大がペースを握り、攻めてもスタメン全員得点で波に乗って終始リードを許すことなく完勝。広島大も速攻などで対抗したが、全般的に単調な攻めが多く自滅した。その他の試合では、1部昇格を決めた岡山大の波に乗った攻守が大会を盛り上げた。



全日本女子年ぶりのヨーロッパ遠征

来春の第8回世界女子選手権アジア予選（詳細未定）必勝を期す全日本女子が、6年ぶりのヨーロッパ遠征を実現させ、9月24日から10月1日まで、ユーゴ、オーストリアで8試合を行った。

日本協会は、3年前の世界選手権予選、2年前のオリンピック予選で敗退した全日本女子の〝再建〟を急いでいたが、このほどコーチングスタッフの熱望が実って、一九七五年の世界女子選手権（ソ連）以来のヨーロッパ行きがととのい、世界最強ゾーンの一つ、ユーゴで6試合、互角の実力といわれるオーストリアで2試合、大きな成果をみやげにして帰国した。

ユーゴ

遠征第1戦は9月24日午後6時30分からコプリネッア体育館で行なわれた。

日本 31（15 16 − 12 10）22 ポドラフカ・コプリネッア

○…全日本女子が、ヨーロッパで試合するのは、75年の世界選手権（ソ連）以来のこと。

緒戦の相手は、今シーズン、全国リーグ1部に昇格した上り坂のクラブ。

立ち上り藪田の活躍で先行し、20分10−7。

得	【日本】		【コプリネッア】	得
0	井村	GK	ゾウタリッチ	0
0	矢部	GK	ミヤロビッチ	0
1	紀野	FP	パヤスカ	1
11	西	FP	クルプスキー	0
3	辻本	FP	ブルキッチ	0
7	藪田	FP	ボトウナエッチ	4
1	竹内	FP	ボピヤッチ	2
5	横山	FP	サマルトイッチ	3
1	志村	FP	カリッチ	1
1	木下	FP	E・ブルサク	8
1	水上	FP	K・ブルサク	3
0	桑原	FP	マチジッチ	0
31	(3)	PT	(7)	22

▽このほかの出場者【日】FP姫野、羽立、山本（いずれも得0）

後半は、西のロングがよく決まりリードを保ったが、ディフェンスにもろさがのぞいて、やらずもがなの得点を与えたのは、反省の要があろう。

ユーゴ、有力な若手揃える

第2戦は25日午後6時30分からコプリネッア体育館でユーゴ・ジュニアナショナルとの間に行われた。

ユーゴ・Jナショナル 26（8 18 − 10 6）16 日本

○…世界女子ジュニン（10月・カナダ）の優勝候補にあげられているユーゴ・ジュニアは、さすがに強い。

180cmのエース、ミュゴザが、サイド、45度から容しゃなく射ちこんでくるのを、日本ディフェンスは防ぎようがなく、20分11−5と大差をつけられた。後半のなかばから、日本は攻撃がまとまったものの、点差を少し縮めただけ。

得	【ユーゴ・J】		【日本】	得
0	スミルヤニッチ	GK	井村	0
0	デリッチ	GK	矢部	0
2	パヤスカ	FP	横山	0
9	ミュゴサ	FP	紀野	0
0	ガリク	FP	辻本	2
0	アナソタソフスキー	FP	西	4
1	クーデルマン	FP	羽立	3
1	クリスティッチ	FP	藪田	0
4	ザビッチ	FP	木下	5
0	デュリカ	FP	桑原	1
5	ベヨビッチ	FP	水上	0
4	ストヤノビッチ	FP	姫野	1
26	(4)	PT	(5)	16

ポドラフカに2連勝

第3戦はコプリネッア・カップトーナメント第1日の試合として26日午後6時から、コプリネッア体育館でポドラフカ・コプリネッアとの間に行われた。

日本 27（14 13 − 9 12）21 ポドラフカ・コプリネッア

○…二度目の対戦とあって、相手は、西をきっちりマークしてきたが、日本は、後半、水上がよく動き、19分20−19から一気に6ゴール、勝負を決めた。6点のうち5点が速攻、この場面は守りも好リズムだった。

得	【日本】		【コプリネッア】	得
0	矢部	GK	ミヤロビッチ	0
0	井村	GK	ゾウタリッチ	0
3	横山	FP	E・ブルサク	4
4	西	FP	パヤスカ	3
6	水上	FP	クルプスキー	0
7	辻本	FP	ブルキッチ	0
1	羽立	FP	カリッチ	4
2	藪田	FP	マチジッチ	2
0	紀野	FP	ボトウナエッチ	0
3	木下	FP	ボピヤッチ	4
1	竹内	FP	サマルトイッチ	4
0	志村	FP		
27	(3)	PT	(3)	21

守りの〝粘り〟が不足

第4戦はコプリネッア・カップトーナメント第2日ダブルヘッダー第1試合として27日午前10時からコプリッツア体育館でベーヌ・セクリッチ・ソンボルとの間に行われた。

B・S・ソンボル 30（19 11 − 11 8）19 日本

得	【ソンボル】		【日本】	得
0	パディニッチ	GK	矢部	0
		GK	井村	0
9	ボイノビッチ	FP	紀野	0
7	デュリカ	FP	横山	2
1	ゴバセビッチ	FP	西	6
4	ポポビッチ	FP	水上	3
3	デュビッチ	FP	竹内	0
0	ハトッツェ	FP	桑原	0
4	ブイクザ	FP	辻本	3
0	マチッチ	FP	羽立	3
1	ボックビッチ	FP	木下	1
1	クベトコビッチ	FP	藪田	1
30	(8)	PT	(5)	19

○…相手のエース、ボイノビッチは、ユーゴを代表する若手アタッカー。20才のデュリカもナショナルの一員だ。

日本は、前半こそ互角で26分8−8と粘ったが、そのあとボイノビッチに3点連取され、さらに後半3分から連続4点を失って敗れた。やはり、守りに廻った際の粘り不足とドがり気味のラインが、深傷（ふかで）の因である。

善戦も前半なかばまで

第5戦はコプリネッア・カップトーナメント第2日ダブルヘッダー第2試合（最終戦）として27日午後6時からコプリネッア体育館でユーゴ・ジュニアナショナルとの間に行われた。

ユーゴ・Jナショナル 30（16 14 − 14 8）22 日本

得	【ユーゴ・J】		【日本】	得
0	デュリッチ	GK	井村	0
0	スミルヤニッチ	GK	矢部	0
9	ミュゴサ	FP	西	9
6	ストヤノビッチ	FP	木下	1
0	パヤスカ	FP	横山	2
3	ガリク	FP	水上	1
4	アナソタソフスキー	FP	辻本	4
3	クーデルマン	FP	羽立	3
1	クリスティッチ	FP	藪田	0
2	サピッチ	FP	紀野	0
0	デュリカ	FP	桑原	0
2	ペヨビッチ	FP	姫野	2
30	(4)	PT	(3)	22

○…第1戦の点差（16−26）を少しでも詰めようと、張り切ってのスタートは、10分4−4と善戦。

そのあと3点を奪われたが、西のロング2本で6−7と粘った。

しかし、この直後、2分間に4点を失ったのが痛く、相手を落ち

つかせてしまった。

なお、この試合で横山がボールを目に当てる負傷をうけた。

◇このほかの試合

ユーゴ・ジュニア 28―22 B・S・ソンボル・

B・S・ソンボル・ 記録不明 P・コブリネッア

ユーゴ・ジュニア 24―16 P・コブリネッア

【順位】①ユーゴ・J・ナショナル3戦全勝②B・S・ソンボル2勝1敗③日本1勝2敗④P・コブリネッア3敗。

最終戦は楽に勝つ

第6戦は28日午後6時からパラディン・スポーツホールでコカ・パラディン・ユースとの間に行われた。

日本 31（9―6、22―6）12 コカ・パラディン・ユース

【日本】		得
GK	矢部	0
	井村	0
FP	紀野	0
	横山	4
	西	5
	姫野	1
	水上	9
	辻本	3
	藪田	4
	志村	3
	竹内	1
	羽立	1
PT	（4）	31

▽このほかの出場者【日】FP桑原（得0）

▽コカの得点、ブトコ5、クラカル3、ベルナト2、スルヤク、ソリナ各1。

○…日本でいう〝高校生〟を中心とした相手に、連続6ゴール、同10ゴールと前半2回の集中攻撃で大勢を決めた。

オーストリア

舞台をオーストリアへ移しての第1戦（遠征第7戦）は、9月30日午後8時からオーラブルーンでオーストリア・ナショナルとの間に行われた。

オーストリア 23（13―12、10―10）22 日本

【日本】		得
GK	井村	0
	矢部	0
FP	紀野	0
	西	8
	桑原	0
	姫野	2
	水上	5
	辻本	1
	羽立	1
	藪田	2
	竹内	0
	木下	3
PT	（2）	22

【オーストリア】		得
GK	クライヒバウム	0
	シュラインツェル	0
FP	ノイバウアー	0
	ライテラー	0
	シコーラ	3
	スタインバウアー	2
	ジーネル	0
	グッシェル	0
	ゲバウエル	3
	ロッツパイヒ	10
	ヒュフナゲル	4
	ツェントネル	1
PT	（1）	23

○…ヒポ銀行のメンバーとして来日した選手4人を含むオーストリアは、11月の世界女子Bグループ（デンマーク）で上位を目指すといろだけあって、なかなかのまとまり。

日本も、外人の高さにされ、後半20分15―21から西、木下、水上のたたみかけで反撃、28分21―22としたが、そのあとPTをとられ相手の逃げ切りを許した。

惜しいところで勝ち逃す

第2戦（遠征最終戦）は10月1日午後7時からテルニッツでオーストリア・ナショナルとの間に行われた。

オーストリア 19（7―10、12―8）18 日本

【日本】		得
GK	矢部	1
	井村	0
FP	紀野	2
	西	5
	志村	0
	桑原	0
	木下	3
	水上	3
	辻本	0
	羽立	3
	藪田	1
	姫野	0
PT	（4）	18

【オーストリア】		得
GK	シュラインツェル	0
	クライヒバウム	0
FP	ノイバウアー	0
	ライテラー	0
	シコーラ	1
	スタインバウアー	1
	ロッツパイヒ	8
	ヒュフナゲル	2
	ツェントネル	0
	ジーネル	2
	グッシェル	0
	ゲバウエル	5
PT	（3）	19

○…第1戦同ようの接戦となり特に、日本は後半11―16から一気に差を詰め、22分16―16としたあとは、一進一退の攻防でスタンドを沸かせた。

オーストリアはロッツパイヒの巧技で先行、日本も紀野の速攻、羽立のスカイプレーで譲らなかったが、残り2分ゲバウエルにもぐりこまれ、決勝点を失った。

GK矢部の得点は、公式国際戦では51年の久保（田村紡）以来の史上2人目の快プレーである。

鈴木義男団長（強化部女子委員長）の話 本場の技術に触れながら、チーム造りをしていくという目的は、充分達せられた。

選手たちが、これで「欲」を出してくれれば、いうことはない。

技術的には、やはりディフェンスで、ヨーロッパ勢の強引なプレーを食い止めるパワーが、はっきり不足していた。

攻撃力は、ユーゴ、オーストリア両関係者とも評価してくれたが、西につづく大型アタッカーが、あと一、二枚どろしても欲しい。

ヨーロッパ遠征 全日本女子

・団長 鈴木 義男（日本協会強化委員）
・監督 池田 鉄哉（日本協会強化委員）
・コーチ 緒方 嗣雄（日本協会強化コーチ）
・コーチ 井 薫（日本協会強化委員）

・GK
①井村文光子（立石電機）170cm
⑫矢部登茂子（ジャスコ）172

・FP
③紀野奈々美（立石電機）165
④横山 澄江（ジャスコ）159
⑤西 典子（大崎電気）167
⑥桑原 広子（立石電機）163
⑦姫野五十鈴（立石電機）154
⑧永上 清美（日立栃木）166
⑨辻本 典子（ジャスコ）166
⑩羽立 節子（立石電機）159
⑪藪田 典子（立石電機）165
⑬山本二三代（ジャスコ）160
⑭竹内 保子（ブラザー工業）162
⑮志村 和子（日本ビクター）165
・特別帯同選手（FP）
⑰木下 智子（立石電機）162

○内数字は今回の背番号

スタミナ養成が課題
～遠征をふりかえって～

全日本女子監督　池田鉄哉

6年ぶりのヨーロッパ遠征とあって、不安と期待をもって出発した。

日本の前途を考えると、韓国、中国に囲まれ苦戦を強いられてきただけに、この遠征で、少しでも明るい材料を、と願い、価値ある遠征としなければならなかった。

ユーゴでは、主にジュニアナショナル、有力クラブ、ユースチームと対戦、表面上の成績は3勝3敗と五分であった。

しかし、敗れた3試合は、評判どおり、ユーゴの将来を期待される選手の活躍に圧倒され、そのパワー、テクニック、スピードは、改めて、本場との差を痛感させるものといえた。

しかも、これらの選手は、20才以下のジュニアであり、ユーゴの選手層の厚さは、うらやましいの一言である。

日本としては、第1戦の8点差を、第2戦では6点差に詰めたことが一つの収獲で、高さ、パワー、スピード、テクニックと三拍子も四拍子も揃った選手に対して、どう向かっていけばよいかを、各人が体得したのなら、いっそう、今後に希望が持てる。

やはり、ナショナル・マッチで勝利を得るには、精神面の強化により、60分間たえず動ける攻防両面のスタミナ養成が、最も基本的なテーマであろう。

しかし、西のロング、水上、羽立、姫野らのプロンション・プレーが得点に結びついてきたなど、明るい材料も、大いにある。

オーストリアとの2試合は、勝てる要素が十二分にあったが、これは、ユーゴでの転戦の効果が出たものと思う。

全遠征を通じ、ディフェンス面の強化の重要性を再認識した。

対策としては、ディフェンス専門でもよいから、フットワーク、読みのできる選手を育てる必要がある。

ロングシューターは、今のところ、西一人でさびしいが、辻本、藪田などの成長と奮起に期待したい。

GKは、ユーゴ、オーストリア勢に対して見劣りがなく、久々のヨーロッパ遠征でありながら、日本が善戦できたのは、井村、矢部両GKの好守におうところが大である。

最後に、横山が試合中、目を痛め、現地で入院というアクシデントがあり、鈴木団長が付き添って大事にはいたらなかったが、遠征の際のドクター帯同は、急務であることを付け加えておきたい。


6年ぶりのヨーロッパ遠征をした日本女子チーム

関東学連ニューカレドニアへ

全日本学連の橋渡しによる関東学生選抜のニューカレドニア遠征が8月26日から9月2日まで行われ、2試合の親善試合を1勝1敗で分けた。

全日本学連は、54年4月にフランス協会の呼びかけで、ニューカレドニア地域に遠征、それ以来、同地域とのルートが確立され、今回の招待となったもの。

フランス領土とあって、相手側には、フランスの元ナショナルプレイヤーも加っており、かなりの力を持っている。

なお、遠征選手団の同長は中沢重夫（全日本学連理事長）、監督は福地賢介（関東学連理事長、早大OB）、コーチは新井田司（日大コーチ）、主務は渕岡繁（全日本学連委員長、慶大）の各氏がつとめた。

東西両学連が西独遠征

関東、関西両学連は、このほど来年2月下旬から3月上旬にかけて、それぞれの男女選抜チームを西ドイツへ遠征させ、本場の技術習得にあたらせる計画のあることを明らかにした。

関東は5年連続の企画だが、関西は初の試み。

▽第1戦（8月29日）

関東学生選抜 34（17－14, 17－11）25 ニューカレドニア選抜

得	【関東学生】		【ニュー・カレ】	得
0	柿崎（中央）	GK	H・ニコラス	0
0	野口（日体）	GK	F・カリオン	0
3	藤井（中央）	FP	セレッチ	6
6	平井（明治）	FP	プグリー	0
6	尾上（中央）	FP	ノイレ	6
7	細川（日体）	FP	メイヤー	1
1	志村（慶応）	FP	レモン	1
2	藤永（日大）	FP	L・カリオン	0
1	塚田（中央）	FP	テクサー	7
2	小林（日体）	FP	バーゲル	3
2	江川（慶応）	FP	タオヘナ	1
3	大鐘（日大）	FP	ハピイ	0
34		（3） PT （2）		25

◇このほかの出場者【関】▽GK高橋（東海）▽FP酒井（筑波）＝得1。

▽第2戦（8月31日）

ニューカレドニア選抜 27（13－12, 14－14）26 関東学生選抜

得	【ニュー・カレ】		【関東】	得
0	H・ニコラス	GK	柿崎	0
0	G・ニコラス	GK	高橋	0
5	テクサー	FP	尾上	8
6	メイヤー	FP	塚田	5
10	ノイレ	FP	江川	2
0	レモン	FP	志村	0
1	テジン	FP	酒井	0
2	タオヘナ	FP	藤井	3
0	ハピイ	FP	平井	3
3	レビイ	FP	細川	4
0	バーゲル	FP	大鐘	1
0	セレッチ	FP	小林	0
27		（1） PT （5）		26

各地の記録

◆福井県高校新人戦

（11月14、15日）

〈男子〉

▽1回戦

羽水 19—12 科技

▽2回戦

羽水 24—6 勝山
高志 20—5 藤島
武生 16—11 福井商
北陸 26—9 丹南

▽準決勝

高志 10—6 羽水
北陸 24—6 武生

▽決勝

高志 16（7—8、9—7）15 北陸

〈女子〉

▽1回戦

羽水 19—3 高志

▽2回戦

北陸 10—7 羽水
藤島 9—7 福井女
武生商 11—10 福井商
仁愛 32—0 科技

▽準決勝

北陸 15—1 藤島
仁愛 11—4 武生商

▽決勝

仁愛 15（7—3、8—3）6 北陸

◆岡山県高校新人戦

（10月31日、11月1、8日）

〈男子〉

▽1回戦

吉備 14—9 青陵
一宮 12—6 津山工
津山 17—11 金川
操山 18—3 東岡山工
芳泉 15—6 玉野
倉敷工 26—7 矢掛
水島工 23—6 津山商
天城 20—6 邑久
倉敷南 30—9 高梁工
落合 22—3 井原
児島 11—8 朝日
岡山工 12—0 成羽
西大寺 19—13 大安寺
古城池 17—11 和気

▽2回戦

倉敷商 21—8 吉備
津山 11—10 一宮
芳泉 10—10（2 PTC 1）操山
水島工 16—15 倉敷工
天城 24—11 倉敷南
児島 10—8 落合
西大寺 18—15 岡山工
総社 17—8 古城池

▽準々決勝

津山 15—11 倉敷商
水島工 16—11 芳泉
天城 14—7 児島
総社 22—12 西大寺

▽準決勝

水島工 23（12—5、11—8）13 津山
総社 21（9—12、12—6）18 天城

▽決勝

総社 25（12—12、13—6）16 水島工

〈女子〉

▽1回戦

井原 7—5 岡山女
津山商 12—5 朝日
一宮 7—7（2 PTC 0）古城池
津山 23—5 金川
真備 16—4 倉敷中央

▽2回戦

天城 18—3 井原
児島 11—5 津山商
倉敷商 21—5 備前東
操山 10—8 一宮
西大寺 14—5 津山
落合 16—1 芳泉
大安寺 9—8 倉敷南
総社 14—4 真備

▽準々決勝

天城 9—8 児島
倉敷商 10—7 操山
西大寺 14—11 落合
総社 23—1 大安寺

▽準決勝

天城 14（7—2、7—3）5 倉敷商
総社 12（4—5、8—1）6 西大寺

▽決勝

天城 13（2—1、1—1、3—5、7—5）12 総社

◆和歌山県高校新人戦

（11月20、21日）

〈男子〉

▽1回戦

笠田 30—8 那賀
新宮 17—9 海南
市和商 15—13 耐久
箕島 37—13 和歌山東

▽2回戦

笠田 16—8 粉河
桐蔭 14—7 新宮
御坊 16—14 市和商
箕島 17—8 県和商

▽準決勝

笠田 23（12—7、11—1）8 桐蔭
御坊 19（6—9、13—8）17 箕島

▽決勝

笠田 23（10—10、13—9）19 御坊

〈女子〉

▽1回戦

御坊 9—7 耐久
新宮 7—5 那賀
県和商 17—6 新宮商

▽準決勝

粉河 15（7—2、8—1）3 御坊
新宮 8（6—3、2—2）5 県和商

▽決勝

粉河 16（5—2、11—0）2 新宮

◆富山県高校新人戦

（11月1、8、15、22、23日）

〈男子〉

▽1回戦（1試合だけ）

高岡南 14—13 富山工

▽2回戦

高岡向陵 34—7 高岡南
伏木 18—14 大沢野工
八尾 16—9 新湊
高岡商 22—16 富山商
小杉 17—13 富山中部
氷見 23—10 富山
雄山 17—10 富山東

▽準々決勝

高岡向陵 28（13—5、15—4）9 伏木
八尾 20（13—6、7—7）13 高岡商
氷見 22（11—3、11—7）10 小杉
高岡 14（6—7、8—4）11 雄山

▽準決勝

高岡向陵 26（13—4、13—4）8 八尾
氷見 25（12—4、13—5）9 高岡

▽決勝

高岡向陵 16（8—5、8—10）15 氷見

※高岡向陵は初優勝

〈女子〉

▽1回戦

有磯 36—1 雄山
高岡向陵 10—9 富山女
高岡女 9—6 富女短付

高岡商 11—7 小杉
▽2回戦
有磯 33—0 高岡
高岡向陵 9—6 富山北部
高岡女 12—5 清光女
高岡商 23—3 高岡第一
▽準決勝
有磯 12（6—5、6—1）6 高岡向陵
高岡商 20（11—7、9—7）2 高岡女
▽決勝
有磯 11（5—3、6—5）8 高岡商
※有磯は4年連続16回目の優勝

◆京都府高校新人戦

＜男子＞
▽予選リーグ
○Aゾーン
洛星 9—8 洛陽工
乙訓 11—6 向陽
洛陽工 26—8 桃山
乙訓 9—3 洛星
洛星 19—2 桃山
向陽 14—8 洛星
乙訓 30—2 桃山
向陽 20—10 洛陽工
※乙訓が準決勝リーグへ
○Bゾーン
京都商 9—8 嵯峨野
城陽 24—4 平安
嵯峨野 21—8 舞鶴工専
京都商 12—2 平安
京都商 14—10 舞鶴工専
城陽 23—4 舞鶴工専
嵯峨野 19—2 平安
城陽 12—8 京都商
舞鶴工専 10—6 平安
城陽 19—3 嵯峨野
※城陽が準決勝リーグへ
○Cゾーン
北嵯峨 17—6 堀川
鴨沂 17—16 城南
東山 17—4 堀川
北嵯峨 14—13 城南
東山 11—8 北嵯峨
北嵯峨 15—12 鴨沂
東山 27—12 鴨沂
東山 19—10 城南
堀川 13—12 鴨沂
堀川 11—10 城南
※東山が準決勝リーグへ
○Dゾーン
塔南 19—9 田辺
同志社 13—11 大谷
塔南 9—8 同志社
田辺 16—13 大谷
塔南 22—12 大谷
同志社 16—5 田辺
※塔南が準決勝リーグへ
○Eゾーン
桂 14—12 東宇治
東稜 12—8 伏見工
桂 23—1 伏見工
東宇治 20—5 東稜
桂 25—3 東稜
東宇治 23—7 伏見工
○Fゾーン
洛水 14—6 洛北
西宇治 22—4 洛東
洛水 13—6 洛東
西宇治 21—6 洛北
西宇治 10—9 洛水
洛北 14—7 洛東
※西宇治が準決勝リーグへ
▽準決勝リーグ
○Aゾーン
桂 6（4—2、2—4）6 城陽
城陽 15（7—7、8—5）12 塔南
桂 13（5—3、8—4）7 塔南
○Bゾーン
東山 16（9—4、7—5）9 乙訓
西宇治 11（7—1、4—6）7 乙訓
東山 12（6—2、6—3）5 西宇治
▽決勝
桂 8（6—3、2—4）7 東山
※桂は初優勝

＜女子＞
▽予選リーグ
○Aゾーン
精華 18—3 京都商
塔南 12—6 嵯峨野
精華 9—3 洛東
塔南 13—3 洛東
嵯峨野 9—4 京都商
洛東 4—4 嵯峨野
塔南 25—2 京都商
塔南 11—6 精華
精華 13—3 嵯峨野
洛東 8—5 京都商
※塔南が準決勝リーグへ
○Bゾーン
○北 20—5 桃山
西宇治 18—5 城南
城南 4—4 桃山
西宇治 13—6 洛北
洛北 4—3 城南
西宇治 15—3 桃山
※西宇治が準決勝リーグへ
○Cゾーン
東宇治 20—3 洛水
城陽 8—7 日吉丘
東宇治 20—2 城陽
日吉丘 4—2 洛水
東宇治 19—6 日吉丘
城陽 5—3 洛水
※東宇治が準決勝リーグへ
○Dゾーン
桂 12—10 田辺
向陽 14—3 鴨沂
向陽 10—4 桂
鴨沂 7—4 田辺
向陽 15—2 田辺
鴨沂 16—3 桂
※向陽が準決勝リーグへ
○Eゾーン
光華 10—5 明徳
西京 40—2 西山
光華 34—5 西京
西京 16—3 明徳
明徳 18—3 西山
光華 15—11 西京
※光華が準決勝リーグへ
○Fゾーン
東稜 6—5 乙訓
京都女 15—4 北嵯峨
東稜 10—6 北嵯峨
乙訓 7—6 京都女
北嵯峨 9—3 乙訓
東稜 6—4 京都女
※東稜が準決勝リーグへ
▽準決勝リーグ
○Aゾーン
東宇治 9（6—2、3—5）7 東稜
光華 14（6—3、8—4）7 東稜
東宇治 12（6—1、6—1）2 光華
○Bゾーン
向陽 5（1—2、4—3）5 西宇治
塔南 9（4—4、5—1）5 西宇治
塔南 3（2—0、1—3）3 向陽
▽決勝
東宇治 15（2—2、2—1、6—9、5—2）14 塔南
※東宇治は2年連続2回目の優勝

◆第26回中国一般男子選手権

（5月17、18日）
▽1回戦
湧永薬品 39—7 中部ク
下関ク 37—24 倉敷工業OB
岩国ク 39—14 朝酌ク
岡山教員 27—18 松工ク
境港市ク 26—19 天城高OB
高根チーム 24—24 呉ベアーズ
3PTC2

島根大 30―17 関金ク
武田薬品光 28―19 海上自衛隊呉
▽2回戦
湧永薬品 33―20 下関ク
岩国ク 32―30 岡山教員
島根チーム 31―29 境港市ク
武田薬品光 30―21 島根大
▽準決勝
湧永薬品 26（12―6、14―6）12 岩国ク
島根チーム 33（14―15、19―10）25 武田薬品光
▽決勝
湧永薬品 49（25―6、24―10）16 島根チーム

▼第9回中国一般女子選手権
（5月17、18日）
▽1回戦
広島HFGク 19―10 徳山ク
米子ク 28―15 松江ク
▽決勝
広島HFGク 24（10―9、14―8）17 米子ク

▼第9回中国中学校選手権
（8月3、4日）
＜男子＞
▽1回戦
長浜中 22―2 境港二中
▽準決勝
下松中 17―9 長浜中
操南中 18―15 江東中
▽決勝
下松中 23（12―3、11―3）6 操南中
＜女子＞
▽1回戦
比治山中 18―2 境港一中
▽準決勝
住吉中 17―5 比治山中
操南中 12―6 江東中
▽決勝
住吉中 8（3―3、5―2）5 操南中

▼第8回中国地区高専親善試合
（7月5日）
○Aパート
津山工専 15（10―9、5―4）13 呉工専
○Bパート
米子工専 17（11―8、6―6）14 徳山工専
宇部工専 22（11―7、11―4）11 米子工専

▼第33回西日本医科学生総体（7月29～31日・京都府立丹波自然運動公園体育館）
▽1回戦
富山医薬大 23―13 京都大
徳島大 12―0 大阪大
金浜医大 15―12 山口大
愛知医大 12―0 和歌山県医大
▽準決勝
徳島大 17（8―8、9―2）10 富山医薬大
金沢医大 20（12―9、8―6）15 愛知医大
▽同決勝
金沢医大 19（10―7、9―9）16 徳島大

○…昨年と同じ顔合せとなった決勝戦は、両チーム共ゲームメーカーをマンツーマンでマークする展開となった（金沢医大②湖平、徳島大④古市）。前半は金沢医大がやや有利に展開したが、終了間際に徳島大が同点に追いつき、さすがと思わせた。しかし、後半になって金沢医大は決勝戦まで温存してきた⑥青木の活躍で徳島大を突き放した。何とか追いすがろうとする徳島大であったが、④古市がマークされてはさすがに苦しく差をつめることが出来ず勝敗が決し、金沢医大が昨年の雪辱を果たした。

（大会後記）

西日本医科学生総合体育大会ハンドボール部門は、今年から念願の西医体（略称）の正式種目となった。そのために尽力のあった6年生のうちより山口大学の川上不二夫選手に豊田杯（西医体ハンドボールの設置に尽力のあった大阪医大OBの豊田昌夫氏の名をとったもの）が贈られた。

我々としても、今後とも医学生におけるハンドボールの発展のために関西医科学生ハンドボール選手権や近畿または西日本医歯薬大会等の企画に着手しようと思っており、東日本医科学生総合体育大会ハンドボール部門との交流（全国医科学生大会）も早期に実現させようと考えております。

また、来年の西医体ハンドボール部門は、産業医科大学の主管で北九州市で行われる予定ですが、より多くの大学が参加してますます発展することを切望しております。

（文責　岩井一宏）

◆第8回千葉県総合選手権
（8月14、15日）
＜一般男子＞
▽1回戦
市柏高A 10―4 明徳高
松戸六実高 18―12 木更津ク
東邦高 18―11 芝工大柏高
鶴舞商高 17―4 生浜高
佐原高 22―7 国分高
市柏高B 21―9 小金高
市川高 24―4 四街道高
木更津高 14―13 我孫子高
清水ク 17―12 柏南高
▽2回戦
市柏高A 12―8 東邦ク
小金ク 26―6 国府台高
日産石油 21―13 松戸六実高
順天堂大 32―6 清水高
東邦高 16―12 海自木補所
佐原クA 22―11 鶴舞商高
市原ク 13―12 佐原高
海自下総 19―11 県柏高
市柏高B 16―13 東電千葉
流山中央高 12―0 若潮クB
市川高 14―13 三井石油
出光千葉 30―8 鎌ケ谷高
佐原クB 16―11 木更津高
清水ク 14―10 千葉大
▽3回戦
千葉教員 39―5 市柏高A
小金ク 17―13 日産石油
順天堂大 29―15 東邦高
市原ク 15―11 佐原クA
海自下総 19―15 市柏高B
市川高 20―8 流山中央高
出光千葉 21―16 佐原クB
若潮クA 21―15 清水ク
▽準々決勝
千葉教員 35―12 小金ク
順天堂大 31―12 市原ク
海自下総 16―13 市川高
若潮クA 34―16 出光千葉
▽準決勝
千葉教員 23（12―11、11―8）19 順天堂大
海自下総 23（15―8、8―9）17 若潮クA
▽決勝
千葉教員 35（20―15、8―4）12 海自下総
＜一般女子＞
▽1回戦
和洋ク 11―4 流山中央高
東邦ク 28―4 我孫子高
佐原女高B 18―2 千葉大
▽2回戦
千葉ク 16―8 和洋ク
佐原女高A 30―3 市柏高
朝顔ク 19―10 佐原高
昭和学院高 13―6 東邦ク
東邦高 24―8 佐原女高B
佐原ク 15―10 四街道高
水郷ク 19―7 生浜高
昭和学院ク 10―3 明徳高
▽準々決勝
千葉ク 27―3 佐原女高A
昭和学院高 20―8 朝顔ク
東邦高 17―1 佐原ク

▽準決勝
昭和学院ク 18－10 水郷ク
千葉ク 14（10－2、4－7）9 昭和学院高
昭和学院ク 9（4－4、5－4）8 東邦高
▽決勝
千葉ク 11（4－6、7－4）10 昭和学院ク

〈中学男子〉
▽準々決勝
福栄中 15－7 柏南部中
東邦中 7－2 逆井中
流山南部中 9－6 佐原五中
柏三中 15－7 市川中
▽準決勝
福栄中 18－1 東邦中
柏三中 15－6 流山南部中
▽決勝
福栄中 12（6－2、6－2）4 柏三中

〈中学女子〉
▽準々決勝
佐原四中 8－3 流山南部中
布佐中 5－4 昭栄中
佐原五中 21－4 逆井中
白井中 20－5 佐原二中
▽準決勝
佐原四中 11－9 布佐中
白井中 12－3 佐原五中
▽決勝
白井中 14（6－1、8－2）3 佐原四中

◆大阪府高校秋季総合

（8月25、26日）
〈男子〉
摂津 21－9 高石
此花 15－9 大阪学院
桃山 22－1 門真
北陽 17－11 堺工
都島工 21－8 上宮
浪商 20－13 貝塚南
初芝 17－9 大商
三島 18－4 松原
▽2回戦
摂津 10－9 此花
桃山 22－14 北陽
都島工 15－8 浪商
三島 16－13 初芝
▽準決勝
桃山 12（2－4、10－4）8 摂津
都島工 14（8－5、6－5）10 三島
▽決勝
桃山 13（10－7、3－3）10 都島工

〈女子〉
▽1回戦
住吉学園 21－9 桜塚
摂津 9－4 鶴見商
箕面 8－6 八尾
春日丘 14－5 長野
城南 8－2 枚方
豊島 5－3 三国丘
初芝 12－11 門真
大谷 11－7 桜宮
▽2回戦
住吉学園 10－8 摂津
春日丘 10－10 箕面（PTC 1－0）
城南 14－1 豊島
大谷 22－5 初芝
▽準決勝
住吉学園 10（4－4、6－4）8 春日丘
大谷 7（4－2、3－3）5 城南
▽決勝
大谷 10（6－3、4－3）6 住吉学園

◆第31回茨城県総合中学校の部

（8月26、27日）
〈男子〉
▽1回戦
茎崎中B 22－5 麻生一中
土浦三中 14－6 府中中
石岡中A 37－4 利根中
石岡中B 9－8 古河一中
結城中 13－9 伊奈中B
▽2回戦
伊奈中A 14－8 茎崎中B
石岡中A 21－6 土浦三中
出島北中 18－6 石岡中B
結城中 12－9 茎崎中A
▽準決勝
伊奈中A 17－4 石岡中A
出島北中 17－10 結城中
▽決勝
伊奈中A 12（4－5、8－6）11 出島北中
※伊奈中は2回目の優勝

〈女子〉
▽1回戦
鹿生中 11－5 水海道中
伊奈中B 11－4 玉造中
結城中 19－3 江戸崎中
▽2回戦
伊奈中A 14－4 麻生中
岩井南中 10－6 出島北中
石岡中 8－7 伊奈中B
結城中 11－9 岩瀬東中
▽準決勝
伊奈中A 17－4 岩井南中
結城中 11－8 石岡中
▽決勝
伊奈中A 24（14－2、10－3）5 結城中
※伊奈中は5連勝

◆関東実業団選手権大会

（9月5、6日）
▽男子1回戦
日本発条 20（12－9、8－6）15 出光千葉
日産化学千葉 16（10－9、6－2）11 日本鋼管京浜
三井石化千葉 29（16－11、13－8）19 日進商会
丸善石油千葉 18（12－8、6－6）14 日本原子力研
セントラル自動車 28（18－4、10－6）10 東京電力千葉
▽2回戦
三景 24（12－9、12－6）15 日本発条
中村荷役運輸 41（22－2、19－2）4 日産化学千葉
大崎電気 39（22－8、17－7）15 三井石化千葉
丸善石油千葉 15（7－7、8－6）13 海自下総
三陽商会 22（12－8、10－8）16 セントラル自動車
東京重機 キケン 海自木補所
▽3回戦
三景 24－17 東京重機
大崎電気 32－13 丸善石油千葉
▽準決勝
三景 24（14－10、10－11）21 中村荷役運輸
三陽商会 26（11－11、15－8）19 大崎電気
▽決勝
三陽商会 22（12－7、10－14）21 三景
※三陽商会は初優勝

和歌山県秋季選手権

（10月31日、11月1日）
〈一般男子〉
▽1回戦
御坊クB 9－0 市和商ク
箕島高 28－11 桐蔭高B
貴志川ク 30－14 和高専
笠田高 27－10 桐蔭高A
耐久高 28－11 県知商
住友金属 13－11 桐蔭ク
和歌山大 21－10 御坊商工
粉河高 18－17 かつらぎク
▽2回戦
箕島高 20－19 御坊クB
丸善石油 27－8 貴志川ク
笠田高 24－17 御坊商工3年
住友金属 25－7 耐久高
和歌山大 21－5 粉河高
▽3回戦
県和商ク 34－15 箕島高
丸善石油 25－17 笠田高
和歌山大 31－15 和歌山ク
御坊クA 21－11 住友金属

▽準決勝
丸善石油 21—19 県和商ク
和歌山大 19—14 御坊クA
▽決勝
丸善石油 23—13 和歌山大
〈一般女子〉
▽1回戦
笠田ク 13—7 耐久高
粉河高 16—6 御坊商高
県和商 7—4 笠田高
▽準決勝
粉河高3年 12—9 笠田ク
粉河高 19—2 県和商
▽決勝
粉河高3年 13—11 粉河高
〈中学男子〉
▽予選リーグ
○Aゾーン
白馬 22—2 打田
那賀 16—4 打田
白馬 20—6 那賀
○Bゾーン
金屋 11—7 貴志川
岩出 15—11 貴志川
岩出 14—11 金屋
▽決勝トーナメント準決勝
白馬 14—6 金屋
岩出 12—7 那賀
▽決勝
白馬 11—9 岩出
〈中学女子〉
▽予選リーグ
○Aゾーン
桃山 28—3 粉河
金屋 34—2 粉河
○Bゾーン
金屋 9—9 桃山
岩出 14—7 那賀
岩出 13—3 貴志川
那賀 19—2 貴志川
▽決勝トーナメント準決勝
金屋 10—8 那賀
岩出 14—6 桃山
▽決勝
金屋 5—4 岩出

◆第31回茨城県総合一般の部選手権大会

（10月31日、11月1日）
〈男子〉
▽1回戦
筑波振球会 37—16 勝田商
日本原研 22—11 動燃東海
筑波大 34—9 日立工商
自衛隊勝田 28—22 水海道一高
竹園高 21—17 岩井高
▽2回戦
筑波振球会 19—15 茨城大
日本原研 19—6 水戸一高
日立一高 20—14 波崎高
筑波大 24—5 勝田高
千代田ク 11—10 鉾田一高
筑波ラバーズ 27—9 自衛隊古河
自衛隊勝田 24—18 麻生高
茨苑ク 23—17 竹園高
▽3回戦
筑波振球会 21—14 日本原研
筑波大 34—7 日立一高
筑波ラバーズ 不戦勝 千代田ク
茨苑ク 20—15 自衛隊勝田
▽準決勝
筑波振球会 29（16—12、13—11）23 筑波大
茨苑ク 32（16—10、16—10）20 筑波ラバーズ
▽決勝
筑波振球会 23（10—13、13—9）22 茨苑ク
※筑波振球会は初優勝
〈女子〉
▽1回戦
桜芳ク 15—8 潮来高
茨城大 不戦勝 太田二高OG
友部高 13—9 鉾田二高
麻生高 10—7 高萩高
▽2回戦
桜芳ク 11—11 結城二高（3 PTC 2）
茨城大 30—0 那珂湊二高
友部高 12—3 岩井高
麻生高 17—16 太田二高
▽準決勝
茨城大 12（5—4、7—3）7 桜芳ク
麻生高 10（3—2、1—0、3—4、3—2）8 友部高
▽3位決定戦
桜芳ク 10（7—1、3—4）5 友部高
▽決勝
茨城大 13（6—5、7—4）9 麻生高
※茨城大は3年ぶり2回目の優勝

◆滋賀県秋季社会人大会

▽準決勝
京都セラミック 23（10—11、13—6）17 高島ク
八幡ク 26（13—10、13—6）16 長浜ク
▽決勝
八幡ク 28（12—9、16—3）12 京都セラミック
※八幡クラブは4連続8回目の優勝。

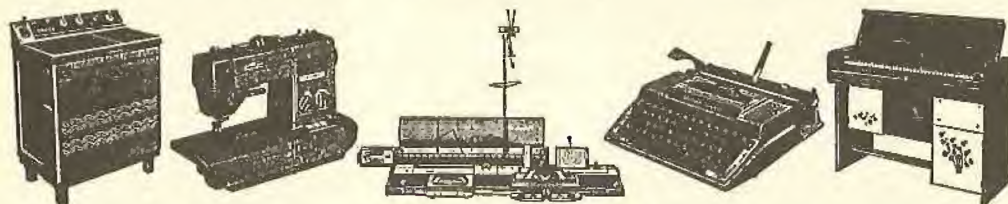
◆富山県選手権

（11月15、22日）
〈成年男子〉
▽1回戦
八尾ク 18—10 想球会
富山教員 26—19 射水ク
氷見ク 29—9 桜樹ク
高岡商ク キケン 北嶺会
▽準決勝
富山教員 28—16 八尾ク
氷見ク 43—8 高岡商ク
▽決勝
富山教員 27（11—11、16—11）22 氷見ク
〈成年女子〉
▽1回戦
有磯OG 11—5 桜球会
想球会 8—6 小杉OG
▽決勝
有磯OG 15（8—1、7—4）5 想球会

◆茨城県中学校新人大会

（11月9、10日）
〈男子〉
▽1回戦
鬼怒 16—11 伊奈
土浦三 11—6 水海道
古河一 11—6 利根
府中 15—8 出島北
麻生一 17—6 岩井
石岡 16—10 土浦一
結城 12—0 水海道四
▽2回戦
茎崎 22—11 鬼怒
土浦三 9—7 古河一
府中 15—13 麻生一
結城 17—8 石岡
▽準決勝
茎崎 23—4 土浦三
結城 13—5 府中
▽決勝
茎崎 12—7 結城
〈女子〉
▽1回戦
玉造 12—4 石岡
▽2回戦
伊奈 12—4 玉造
水海道 16—5 江戸崎
岩井 14—4 出島北
岩井南 14—3 岩瀬東
麻生 12—5 鬼怒
五霞 11—2 利根
北浦 12—5 牛久一
結城 12—0 八千代一
▽3回戦
水海道 4—3 伊奈
岩井 6—3 岩井南
麻生 23—6 五霞
結城 7—4 北浦
▽準決勝
岩井 10—2 水海道





麻生 7―3 結城

▽決勝

麻生 15―5 岩井

◆第31回青森県秋季高校

（11月21、22日）

〈男子〉

▽1回戦

野辺地横浜 キケン 鰺ケ沢

三本木 13―10 五所川原

青森東 26―16 弘前南

青森商 キケン 五所川原工

青森南 25―9 十和田工

青森 20―8 野辺地工

▽2回戦

野辺地横浜 21―11 柏木農

三本木 27―11 青森東

青森商 36―9 青森南

野辺地 23―13 青森

▽準決勝

三本木 21（13―4、8―6）10 野辺地横浜

青森商 17（0―1、2―0、8―6、7―9）16 野辺地

▽決勝

青森商 29（15―8、14―5）13 三本木

〈女子〉

▽1回戦

青森商 9―6 三本木

七戸 10―5 青森中央

青森西 18―2 青森東

▽準決勝

野辺地 7（4―2、5―5）7 青森商

青森西 26（12―2、14―2）4 七戸

▽3位決定戦

青森商 10（6―3、4―1）4 七戸

▽決勝

青森西 18（8―4、10―6）10 野辺地

◆千葉県実業団秋季リーグ戦

▽1部リーグ

三井石油化学 22（12―9、10―10）19 日産石油化学

丸善石油千葉 16（11―7、5―4）11 出光千葉

三井石油化学 23（11―14、12―6）20 丸善石油千葉

海自下総 26（13―7、13―5）12 日産石油化学

海自下総 29（14―5、15―4）9 海自木補所

三井石油化学 31（18―10、13―12）22 出光千葉

丸善石油千葉 34（13―7、21―6）13 海自木補所

丸善石油千葉 26（13―10、13―8）18 日田石油化学

出光千葉 26（12―8、14―3）11 海治木補所

海自下総 29（16―11、13―11）22 出光千葉

三井石油化学 26（14―4、12―6）10 海自木補所

海自下総 30（17―8、13―11）19 丸善石油千葉

日産石油化学 28（11―9、17―11）20 海自木補所

海自下総 18（7―8、11―10）18 三井石油化学

出光千葉 21（10―10、11―10）20 日産石油化学

（順位）①海自下総②三井石油化学③丸善石油千葉④出光千葉⑤日産石油化学⑥海自木補所

▽2部リーグ

陸自第一ヘリ団 23（12―8、11―2）10 住友千葉化学

住友千葉化学 23（10―9、13―13）22 東京電力千葉

陸自第一ヘリ団 18（6―8、12―5）13 東京電力千葉

（順位）①陸自第一ヘリ団②住友③東京電力千葉

◆滋賀県高校新人戦

（11月5～7日）

〈男子〉

▽予選リーグ

○Aゾーン

①米原 ②八幡工

○Bゾーン

①彦根西 ②彦根東 ③安曇川

○Cゾーン

①高島 ②能登川

▽決勝トーナメント1回戦

米原 28―15 安曇川

彦根東 24―18 能登川

八幡工 23―17 高島

▽準決勝

米原 35（14―9、21―5）14 彦根東

八幡工 18（2―0、1―1、5―9、10―6）17 彦根西

▽決勝

米原 27（13―8、14―4）12 八幡工

〈女子〉

▽予選リーグ

○Aゾーン

①彦根西 ②安曇川 ③八幡商

○Bゾーン

①守山女 ②彦根東 ③愛知

○Cゾーン

①彦根南 ②能登川 ③高島

○Dゾーン

①大津商 ②米原

▽決勝トーナメント1回戦

能登川 8―6 愛知

八幡商 13―10 米原

高島 9―8 安曇川

▽2回戦

彦根西 14―2 能登川

彦根東 11―8 大津商

彦根南 16―3 八幡商

守山女 14―9 高島

▽準決勝

彦根南 16（4―9、12―5）14 守山女

彦根西 21（9―0、12―2）2 彦根東

▽決勝

彦根西 13（6―8、7―1）9 彦根南

◆全日本総合社会人男子東海・北信越・近畿（中地区）予選会

（11月23日）

雪陵ク（近畿）20（7―10、13―7）17 蒲郡ク（東海）

氷見ク（北信越）25（13―11、12―8）19 雪陵ク

氷見ク 20（12―9、8―5）14 蒲郡ク

※氷見クラブが中地区代表として全日本総合に出場

◆三重県総合選手権

〈男子〉

▽1回戦

津工A 17―6 鈴鹿高専

鳥羽商船B 18―15 日生学園第二

鵜ノ森クA 31―10 海星高A

桑名西高OB 16―14 四日市中央工A

三重教員B 25―14 亀山高OB

中央ク 31―15 半田ク

三重大 28―10 七和ク

四日市工A 23―10 四日市南高

木田爽風会 31―11 鵜ノ森クB

セブンスターズ 27―21 亀山高

桑名工A 22―19 愛球会

桑名西高 20―10 四日市西高

▽2回戦

桑名工B 23―12 明野航空学校

桑名高B 24―13 津高

桑名高A 15―12 四日市中央工B

尾鷲高B 25―11 高田A

本田技研 41―10 津工業A

三菱油化 16―15 鳥羽商船B

鵜ノ森クA 19―11 鷲球会

四日市工業B 19―10 中央ク

桑名西OB 17―10 尾鷲高A

三重教員B 31―16 高田高B

三重教員A 28―24 四日市工業A

尾鷲ク 31―17 三重大

セブンスターズ 36―17 津工B

HANDBALL SPECIAL

NEW

3063(標準小売価格)¥12,000

■オックスハイド甲皮■シェルソール■ホワイト×ブルー

3064■ホワイト×レッド

3065■ホワイト×ブラック

SPECIAL

新登場、ハンドボールスペシャル。なぜ、「スペシャル」なのか。



あのシェルソールが、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をアップ。

世界選手権を始め、国際大会で圧倒的な使用率を誇り、数々の栄光へ導きつづけるアディダス・ハンドボールシューズが、スポーツ科学の最新の成果を背景にさらに新たなシェルソールを装備して登場しました。その名も「ハンドボールスペシャル」。速攻性の追求はもちろん、ソールの溝は極限の倒れ込みシュートでも安定した軸足を確保。ターンを容易にする回転ゾーンやグリップ性を高める吸盤、トレフォイル(3つ葉)パターンなど、ハンドボール競技におけるフットワークの意味をマキシムまで追求し、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をさらにアップしています。

勝利を呼ぶ3本線

adidas®

The science of sport.

KSG 兼松スポーツ用品株式会社

〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3☎06-305-1431 〒130 東京都墨田区緑2-12-3☎03-634-1411

本田爽風会 36—10 鳥羽商船A
桑名工A 22—8 海星高A
本田技研B 49—13 桑名西高

▽3回戦
本田技研A 43—8 三菱油化
鵜ノ森クA 31—24 桑名工B
四日市工B 16—9 桑名高B
三重教員A 31—24 尾鷲ク
本田爽風会 29—6 桑名高A
三重教員B 22—18 桑名西高OB
本田技研B 40—13 尾鷲高B
桑名工A 12—0 セブンスターズ

▽準々決勝
本田爽風会 26—20 三重教員A
本田技研B 52—12 桑名工A
本田技研A 36—12 鵜ク森ク
三重教員B 21—19 四日市工B

▽準決勝
A本田技研 27（12—10、15—5）15 B三重教員
B本田技研 29（12—10、17—7）17 本田爽風会

▽決勝
B本田技研 21（10—11、11—8）19 A本田技研

＜女子＞
▽1回戦
亀山高OG 7—1 メリメール
ジャスコ東 40—2 四日市商
尾鷲高 26—8 四日市高OG
津女子高B 12—0 上野商
四日市商B 9—5 三重大
あゆみク 17—4 尾鷲ク
むつみケ丘ク 18—5 四日市西高
ジャスコ西 36—0 尾鷲高B
暁高B 23—5 四日市商OG
暁高OG 13—8 上野高
泗高C 17—11 桑名OG

▽2回戦
暁高A 20—3 亀山高OG
津女子高B 12—0 松阪女子高
むつみケ丘ク 23—6 津西高
亀山高 13—10 暁高OG
津女子高A 15—3 泗商C
ジャスコ西 22—5 暁高B
泗商B 12—0 あゆみク
ジャスコ東 24—8 尾鷲高A

▽準々決勝
ジャスコ東 21—11 暁高A
津女子高B 14—6 泗商B
津女子高A 19—12 亀山高
ジャスコ西 12—0 むつみケ丘ク

▽準決勝
ジャスコ東 27（17—2、10—3）5 B津女子高
ジャスコ西 31（14—2、17—1）3 A津女子高

▽決勝
東ジャスコ 19（9—8、10—7）15 西ジャスコ

◆名古屋市中学校新人大会（10月24・25・31日・11月1日）

＜男子＞
▽1回戦
昭和橋 15—5 東陵
明豊 13—12 扇台
神沢 13—10 名塚
汐路 19—8 守山西
北陵 10—9 日山
豊国 25—3 港北
浄心 13—7 新郊
笈瀬 17—11 笹島
守山北 13—8 平針

▽2回戦
御幸山 17—12 昭和橋
明豊 18—12 千種
神沢 14—5 一色
汐路 26—7 久方
猪子石 13—11 北陵
豊国 20—3 浄心
笈瀬 11—9 南光
守山北 11—8 天白

▽3回戦
御幸山 16—12 明豊
汐路 20—6 神沢
豊国 22—13 猪子石
守山北 7—5 笈瀬

▽準決勝
汐路 17—5 御幸山
豊国 22—11 守山北

▽決勝
汐路 27（13—3、14—7）10 豊国

＜女子＞
▽1回戦
豊国 23—7 明豊
白山 14—4 笈瀬

▽2回戦
神沢 12—2 若水
笹瀬 不戦勝 港北
汐路 19—8 大高
豊国 16—5 名塚
白山 18—7 久方
菊井 不戦勝 日比津
平針 14—9 港南
守山北 14—6 東港

▽3回戦
神沢 17—4 笹島
豊国 18—5 汐路
白山 9—7 菊井
守山北 20—6 東港

▽準決勝
豊国 11—7 神沢
白山 7—5 守山北

▽決勝
豊国 12（6—2、6—7）9 白山

◆東北総合宮城県予選（11月26〜29日）

＜男子＞
▽1回戦
宮教大 20—11 古川商高
仙台大 33—4 登米ク
東北工大 31—19 筑館商
学院大工学 27—3 榴ヶ岡高
宮城工高 13—11 古川高
育英高 23—2 電子工
仙台南高 20—16 宮城高専

▽2回戦
学院大OB 32—29 宮教大
仙台大 35—9 一迫商高
東北大 25—6 古川工
教員 24—16 東北工大
学院大 17—16 学院大工学
仙台二高 17—9 宮城工高
育英高 18—11 古川高OB
仙台大OB 38—12 仙台南高

▽準々決勝
学院大OB 20—19 仙台大
東北大 20—17 教員
学院大 30—9 仙台二高
仙台大OB 20—17 育英高

▽代表決定戦
東北大 25（11—9、14—10）19 B学院大O
B仙台大O 22（10—9、12—6）15 学院大

＜女子＞
▽1回戦
全涌谷 22—5 古川女高
古川商高 11—5 塩釜ク
宮三女OG 17—5 宮教大
二華会 10—5 筑館女高
仙女商高 9—3 杜の都ク
飯野川高 8—7 宮二女高
聖和学園 11—4 古川商OG
宮三女高 13—8 塩釜女高

▽準々決勝
全涌谷 18—8 古川商高
宮三女OG 12—8 二華会
飯野川高 12—3 仙女商高
聖和学園 10—9 宮三女高

▽代表決定戦
全涌谷 13（8—2、5—2）4 宮三女OG
聖和学園 13（7—4、6—3）7 飯野川高



勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

"Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.



勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

――――無言の威圧感を与えるヒュンメル――――

DOUBLE SCORE

総発売元株式会社ダブルスコア／総代理店大松貿易株式会社
大阪市南区難波新地3-27プリンスビルB1 〒542 TEL. (06) 213-6646

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二〇二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五六年十月二十五日 印刷
昭和五六年十一月一日 発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表（467）七〇九七
振替 東京 六－五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）



一歩速く。

鋭いダッシュ、確かなストップがゲーム展開を有利にする。



アシックスタイガーのハンドボールシューズはスタートダッシュが鋭く速くでき、ストップが確実にできるシューズマシンです。
だから どのような状況のプレーにも「一歩速く」スムースに動くことができます。従ってディフェンスを抜くことも容易でノーマークの状況をつくり出すことができます。また「攻」から「守」への転換もスムースで速くできます。
勝つために この一足を ぜひ。

asics TIGER
Handball Shoes
ハンドボールBK

ハンドボールBK（THH703） ■甲被は牛皮カラーベロア。 ■底はノンスリップ意匠底。 ■タコの吸盤の原理を応用した特殊ソール。 ■レッド×ホワイト、ブルー×ホワイト ■サイズ 22.5～28.0cm